

願 記・得度願之件 得度願ニ關スル注意

- 一 組長事務所ニ於テ試験通暢濟
- 一 本山ニ於テ受験希望

執行 御中

○得度願ニ關スル注意 (大正十年六月 甲達第九號)

改正 昭和七、一〇 昭和八、五

- 一 本願書面相當欄ニ必要事項ヲ記シ不必要ノ文字ハ必ス抹消ノ上捺印セラルヘシ
- 一 所屬寺住職兼務共ニナキ時ハ左ノ通り法類連署スヘシ

右所屬寺何寺無住ニ付

何府市町何寺住職

何縣郡村何 某◎

- 一 本願書面戸主又ハノ下ニハ何某何男庶子等ト記入スヘキコト
- 一 本願書ノ外ニ得度誓約書、戸籍謄本、身元證明書各壹通ヲ添付セラルヘシ

一 布袍持參ノコト

一 御式日ハ二、三、四、五、六、八、九、十一、十二ノ各月ハ十六日ニシテ十月ハ十八日ナリ一月七月ハ行ハセラレス

一 願人ハ年齢十歳以上ニテ本山又ハ組長ニ於テ七祖聖教句讀、領解文講案ノ試験ニ合格シタルモノタルコト但シ派内中學校專修學院一年級以上終了ノモノハ試験ヲ要セス

一 得度冥加貳拾五圓、入籍料五圓、計參拾圓外ニ衆徒三季冥加一ヶ年分並所屬寺義務金全部完納ヲ要ス

一 願人ハ御式日ヨリ遅クモ七日以前ニ願書ヲ本山ニ郵送シ必ス四日以前ニ出頭セラルヘシ

御式習禮ハ式日前三日間實施ス

依テ習禮履習濟ニアラサレハ受式スル事ヲ得ス

一 法名ニ左ノ文字ヲ許可セラレス

親、鸞、光、瑞、明、鏡、淨、如、照、勝

一 俗名ト異ニスル法名授與ヲ出願スルモノハ得度願ト

同時ニ改名御添書願ヲ提出セラルヘシ

一 不具者ニアラサル者

一 身元證明書ヲ添付スヘキコト

一 寫眞(全身手札形)添付ノコト

右差支無之候條及進達候也

何教區管事 何 某◎

執行 御中

改名願(用紙ハ交付ス)

何府市町何番地 華士族平民

何縣郡村何屋敷 戶主(又ハ何某何男)

(本人) 何 某

(法名ハ朱) 法名 何々

(書スヘシ)

私儀從來何々ノ名稱ニ候處何年月何日眞宗本願寺派

本山本願寺ニ於テ得度致シ法名何々ト授與セラレ候ニ

就テハ宗規ニ依リ今般右法名ニ改名致度候條御許可被

成下度管長添書ヲ以テ此段願上候也

年 月 日 右(本人) 何 某◎

(本人戸主ニアラサルトキハ) 左記ノ通り戸主連署スヘシ

何府市町何番地 屋敷 華士族平民

何縣郡村何屋敷 右戸主 何 某◎

(市區町村長與書)

縣知事又ハ市町村長姓名宛

右府縣知事又ハ市町村長ノ姓名記載ナキトキハ

御添書下附相成ラサルニ付其姓名書漏サ、ル様

注意スヘシ

○改名願之件

- 一 派内僧侶ニシテ戸籍上法名ニアラサル者ハ凡テ諸願ヲ取扱ハレサル規定ニ付得度許可ヲ受ケタル後直チニ左記改名御添書願一通ニ地方廳宛改名願書二通並ニ冥加金參圓相添へ御添書ヲ申受ケ地方廳ニ願出ツヘキコト

改名御添書願(用紙ハ交付ス)

私儀別紙ノ通り改名ノ儀地方廳ニ出願致度候條御添

書御下附被成下度此段願上候也

何府市町何縣郡村何寺衆徒

何 某◎

年 月 日 何 某◎

別記ノ通り相違無之ニ付與印仕候也

何教區組長 何 某◎

願 記・得度願ニ關スル注意 改名願之件



願 記・改名届之件 改姓届之件 所屬寺轉換願之件

○改名届之件

一地方廳ヨリ改名許可ヲ受ケタルトキハ其許可指令本紙又ハ改名ノ年月日ヲ證スヘキ戶籍抄本ニ度牒ヲ添ヘ左記書式ノ通り本山へ届出ラルヘシ

改名 届(用紙ハ交付ス)

私儀從來何々ノ名稱ニ候處何年何月何日地方廳ノ許可ヲ得テ法名何々ト改名致候條記錄訂正度牒裏書被成下度別紙戶籍抄本相添ヘ此段御届仕候也

何府市町  
何縣郡村

何寺 衆 徒

年月日 何 某

前記ノ通り相違無之ニ付奥印仕候也

何教區組長 何 某

右差支無之候條及進達候也

何教區管事 何 某

執行 御 中

○改姓届之件

一改姓セシ者ハ改姓ノ年月日ヲ證スヘキ戶籍謄本(又抄)並ニ度牒相添左記ノ通り本山へ届出ツヘシ

改 姓 届

私儀從前何々姓ニ有之候處何年何月何日何々ト改姓致候條記錄訂正度牒裏書被成下度別紙戶籍謄本(又抄)相添此段御届仕候也

何府市町  
何縣郡村

何寺 衆 徒

年月日 何 某

(組長及管事ヲ經由スルコト)

執行 御 中

○所屬寺轉換願之件

一派内甲寺ヨリ乙寺ニ僧籍ヲ轉換セント欲スル者ハ願

何教區管事 何 某

何教區管事 何 某

執行 御 中

願 記・所屬寺轉換願之件 度牒再請願之件

書ニ本人ノ度牒並ニ冥加金貳拾圓相添ヘ左記書式ノ通り願出ツヘシ

所屬寺轉換ト同時ニ改姓手續ヲ要スル向ハ必ス改姓届ヲ添附セラルヘシ

所屬寺轉換願(用紙ハ交付ス)

私儀今般府市町何寺衆徒ニ轉換致度候條御許可ノ上度牒裏書被成下度此段願上候也

何府市町  
何縣郡村

何寺 衆 徒

年月日 (右本人) 何 某

右寺 住 職

(甲寺住職) 何 某

何府市町  
何縣郡村

何寺 住 職

(乙寺住職) 何 某

前記ノ通り相違無之候條御許可相成度候也

何教區組長 何 某

何教區組長 何 某

右差支無之候條及進達候也

○度牒再請願之件

一度牒水火盜難等ニ罹リタルトキハ冥加金參圓相添ヘ左記ノ通り度牒ノ再下付ヲ出願スルコトヲ得

一度牒裏書ヲ要スル願書提出ニ當リ度牒所持ナキ者ハ必ス度牒再請出願スヘキコト

(書式)

度牒再請願

私儀何年何月何日得度被差許度牒御下附相成候處何々(水火盜難等ノ事故)ニ付格別ノ御詮議ヲ以テ今般更ニ御下附被成下度此段願上候也

何府市町  
何縣郡村



願 記・度牒再請願之件 衆徒轉屬願之件

何寺 住職副住職  
前任職衆徒  
年月日 何 某

(組長及管事ヲ經由スルコト)

執行御中

○衆徒轉屬願之件

一他派ヨリ本派へ轉屬セント欲スル者ハ左記轉屬願書  
ニ前所屬派ノ開濟指令本紙得度日時證明書並ニ戶籍  
謄本(又ハ)冥加金五拾八圓並ニ衆徒三季冥加一ヶ年  
分相添へ願出ツ可シ  
一他派ヨリ轉屬セシ者ニシテ俗名ノ者ハ速ニ法名ニ改  
名ノ爲メ御添書願出ツヘシ(改名御添書願ノ手續ハ  
前ニアリ)  
(書式) (他派ヨリ本派ニ轉スル書式)

轉 屬 願

何府市町  
何縣郡村  
何派何寺衆徒

何年何月何日生 某

何年何月何日得度

今般府市町何寺衆徒ニ轉屬致度候間御差問無之候  
ハ、御開届之上度牒御下附被成下度仍テ何派開濟指  
令本紙相添此段願上候也

年月日

右 何 某

何府市町  
何縣郡村

何寺住職

(本派所屬寺) 何 某

(組長及管事ヲ經由スルコト)

執行御中

一本派ヨリ他派へ轉屬セント欲スル者ハ左記轉屬願書  
ニ度牒並ニ冥加金五拾圓相添願出ツヘシ  
但シ正副住職タル者他派へ轉屬出願ノ節ハ必ス同  
時ニ退職願書ヲ差出スヘシ

(書式) (本派ヨリ他派ニ轉スル書式)

轉 屬 願

何府市町  
何縣郡村

何寺衆徒

何 某

何年何月何日生

今般(何々事故)ニ依リ何府市町何派何寺ノ衆徒ニ  
轉屬致度候條御差問無之候ハ、該派本山へ御照會之  
上御開届被成下度依テ度牒相添へ此段願上候也

年月日

右 何 某

右寺住職(又ハ兼務住職)

(所屬寺住職) 何 某

前記之通相違無之候ニ付奥印仕候也

何教區組長 何 某

右差支無之候條及進達候也

何教區管事 何 某

執行御中

退任職願又副任退職願

私儀今般(何々事故)ニ依リ何派何寺へ轉屬致度候ニ

願 記・衆徒轉屬願之件

付退職御許可被成下度此段願上候也

何府市町  
何縣郡村

何寺住職

何 某

何府市町  
何縣郡村

何寺住職

法類 何 某

何府市町  
何縣郡村

檀家總代

何 某

(檀家總代連署スルコト)

前記ノ通り相違無之ニ付奥印仕候也

何教區組長 何 某

右差支無之候條及進達候也

何教區管事 何 某

執行御中



願 記・教師進教師薦舉之件

○教師進教師薦舉之件

教師薦舉狀(用紙ハ交付ス)

何府市町  
何縣郡村

何寺衆徒住職

何 某

何年何月何日生

一學歷 何々

一準教師拜命後滿十ヶ年以上自坊布教ニ勉メ功績有之  
右之者性行端正教導適任ノ者ニ付教師御申付被成下  
度此段薦舉仕候也

何府市町  
何縣郡村

何寺住職兼務住職

何 某

年 月 日

(但シ本人住職及無住ノ場合ハ法類ヲ要ス)

前記ノ通り相違無之ニ付奥印仕候也

何教區何組長 何 某

右差支無之候條及進達候也

何教區管事 何 某

執行御中

進教師薦舉狀(用紙ハ交付ス)

何府市町  
何縣郡村

何寺衆徒

何 某

何年何月何日生

一學歷 何々

右之者性行端正住職適任ノ者ニ付準教師御申付被成下  
度此段薦舉仕候也

何府市町  
何縣郡村

何寺住職兼務住職

何 某

年 月 日

(但シ無住ノ場合ハ法類ヲ要ス)

前記ノ通り相違無之ニ付奥印仕候也

右差支無之候條及進達候也

何教區管事 何 某

執行御中

現住所

何 某

私儀教師(進教師)無試驗認定(檢定試驗)相受度書類ヲ  
具シ此段相願候也

年 月 日

何 某

執行御中

一檢定料ハ金拾圓認定審査料ハ金貳拾圓ニ付願書ト共  
ニ納付ノコト

一檢定認定何レモ通暢ノ上ハ教會金住籍料上納ノ事

一檢定認定ノ期日ハ教海一瀾ヲ以テ廣告ス

一準教師薦舉狀ハ必ス住職願ト同時ニ提出ノ事

願 記・教師進教師薦舉之件 教士薦舉之件

教師(進教師)認定(檢定)願

何府市町  
何縣郡村

一薦舉狀ノ外ニ戶籍謄本又ハ抄本並ニ教會金參拾圓住  
籍料五圓(進教師ヨリ教師ニ補セラル、者ハ教會金  
五拾圓)ヲ添ヘ差出サルヘシ履歷書ハ添付ニ及ハス  
一認定出願者及受験者ハ薦舉狀戶籍抄本ノ外ニ左記離  
形ノ認定又ハ檢定願及履歷書ヲ添ヘ差出サルヘシ

○教士薦舉之件

一、教士試驗ハ毎年二、五、八、十一月四季ニ分チ本  
山ニ於テ施行スヘキニ付受験者ハ試驗期日ヨリ七  
日以前ニ教士薦舉狀並ニ受験料金拾圓ヲ携帶シ本







願 記・教士女教士改姓名又ハ死亡届出之件  
執行御中 住職及兼務願之件

年月日 右寺正兼住職 何 某

何府市町 何 某

何縣郡村 何 某

何寺住職 何 某

法類 何 某

何府市町 何 某

何縣郡村 何 某

檀家總代 何 某

前記ノ通り相違無之ニ付御許可相成度候也 (檀家總代連署スル事)

何教區何組長 何 某

右差支無之候條及進達候也 何教區管事 何 某

執行御中 何 某

(乙號) 住職 願(用紙ハ交付ス)

何府市町 何 某

何縣郡村 何 某

何寺正副兼務住職 何 某

一無住ニ付

願 記・住職及兼務願之件

一何年何月何日死亡ニ付

一何々ニ依リ退職致度ニ付

一法務多端ニ付

何府市町 何 某

何縣郡村 何 某

何寺乘徒正副前住職 何 某

一所屬寺轉換ノ上

右寺正副住職御申付

一右寺兼務住職御申付

前記頭書ノ通り御許可被成下度此段願上候也

何府市町 何 某

何縣郡村 何 某

何寺正副兼務住職 何 某

何府市町 何 某

何縣郡村 何 某

何寺住職 何 某

甲寺法類 何 某

何府市町 何 某

何縣郡村 何 某

甲寺檀家總代 何 某

何府市町 何 某

何縣郡村 何 某

甲寺檀家總代連署スル事

何府市町 何 某

何縣郡村 何 某

甲寺檀家總代連署スル事

何府市町 何 某

何縣郡村 何 某

甲寺檀家總代連署スル事

何府市町 何 某

何縣郡村 何 某

甲寺檀家總代連署スル事

何府市町 何 某

何縣郡村 何 某

何寺住職 何 某

乙寺法類 何 某

何府市町 何 某

何縣郡村 何 某

何寺住職 何 某

兼務承諾人 何 某

前記ノ通り相違無之ニ付御許可相成度候也

何教區何組長 何 某

何教區何組長 何 某

何教區何組長 何 某

右差支無之候條及進達候也

何教區管事 何 某

何教區管事 何 某

何教區管事 何 某

執行御中 何 某

○住職願ニ就テ注意

一本願書用紙甲號ハ其寺所屬者ノ正副住職願ニ限り適



願 記・住職及兼務願之件 願記用紙交付ノ件

- 一 用シ乙號ハ他寺ヨリ轉任又ハ兼務願等ヲナス場合ニ適用スヘキモノトス
- 一本願書面相當欄内ニ必要事項ヲ記シ不必要ノ箇所ハ必ス抹消シ捺印ノコト
- 一 退職ノ理由ニハ老衰其他事項ヲ記入ノコト
- 一 住職志願者ハ年齡滿二十歳以上ノ者ニシテ教師又ハ準教師ノ者タルコト
- 一 正副住職願ニハ本人ノ戶籍抄本ヲ添付セラルヘシ履歷書ハ添付ニ及ハス
- 一 甲寺ノ者カ乙寺ヘ轉スル場合ハ乙號用紙ニ依リ所屬寺轉換ノ上該寺正(副)住職御申付ト記シ甲寺住職又ハ兼務住職甲乙兩寺ノ法類並ニ甲乙兩寺檀家總代ノ連署甲乙兩組長ノ與書ヲ要ス
- 一 其寺所屬ノ者カ正副住職ト成ル場合ハ甲號用紙ニ依リ該寺住職又ハ兼務住職法類檀家總代ノ連署並ニ所轄組長ノ與書ヲ要スヘキモノトス
- 一 兼務願ハ乙號用紙ニ依リ兼務者本人並ニ法類檀家總代ノ連署組長ノ與書ヲ要ス但シ兼務人カ他組ノ者ナレハ該組長ノ與書ヲモ要ス
- 一 無住寺ハ法類二名連署ノコト

一 正副住職繼席衣體冥加ニ關スル注意ハ大正十一年一月九日甲達第一號ノ通り

○願記用紙交付ノ件 (大正十年八月甲達第十六號)

派内一般

今般事務簡捷ヲ圖ル爲メ得度願改名願改名屆教師薦舉狀準教師薦舉狀住職願所屬寺轉換願ノ用紙ヲ印刷ニ付シ本山庶務部及各教區教務所ニ備付置候條願人ハ所要ニ應シ參錢切手封入申出ツヘシ

○寺院創立再興復舊願之件

- 一 現今寺院創立ハ鹿兒島縣、北海道及臺灣、朝鮮以外ノ地方ニ在リテハ格別ノ事由アルニアラサレハ許可相成ラス
- 一 寺院創立再興復舊志願ノ者ハ御添書願一通、地方廳宛願書二通、附屬書類(明細書、建物設計書、境内敷地圖、建物圖面等)二通、並ニ冥加金五圓相添ヘ御添書ヲ申受ケ地方廳ヘ出願スヘシ
- 一 地方廳ニ於テ寺院創立再興復舊ヲ許可セラレタルトキハ其許可指令本紙相添ヘ寺號記入願並ニ木佛安置願ヲ差出スヘシ
- 一 寺院創立再興復舊ハ地方廳許可ノ日ヨリ滿二年以内ニ建設セサルトキハ其許可ヲ取消サルヘシ
- 一 但シ工事巨大ニシテ數年ニ互ルモノハ豫メ地方廳ヘ右期限ノ猶豫ヲ出願スヘシ
- 一 地方廳ヘ差出スヘキ願書及附屬書類ハ地方廳ノ内規アルヘキニ依リ當該地方廳ノ指揮ヲ乞ヒ作成スヘシ

(書式)

寺院創立(又ハ再興復舊)御添書願

願 記・寺院創立再興復舊願之件

何府市町  
何縣郡村

(創立又ハ再興復舊) 何 寺

今般別紙ノ通り右何寺創立(再興復舊)ノ儀地方廳ヘ出願致度候條寺號御許可ノ上御添書御下附被成下度此段願上候也

何府市町  
何縣郡村

何 寺 住 職 (副住職又ハ兼務)

年 月 日 (豫約住職又ハ豫約兼務住職) 何 某◎

何府市町  
何縣郡村

何 寺 住 職 何 某◎

(再興、復舊ノ場合ハ法類ヲ要セス)

何府市町  
何縣郡村

信 徒 總 代 何 某◎



願 記・寺院創立再興復舊願之件 寺院移轉願之件

執行御中 (信徒總代連署スルコト)

○寺院移轉願之件

- 一寺院移轉出願者ハ地方廳宛移轉願、移轉明細書、移轉先建物設計書、敷地及建物圖面等各二通冥加金五拾圓相添へ御添書願出ツヘシ
- 一右許可ヲ受ケタルトキハ指令本紙相添へ其旨直ニ本山へ届出ツヘシ
- 一寺院移轉願御添書ハ移轉ヲ要スル理由明確ニシテ且ツ現在地及移轉先ノ雙方檀信徒法類ニ於テ更ニ支障ナキ事ヲ認メラル、ニアラサレハ下附相成ラス
- 一右御添書出願ニ當リ移轉先境内地其寺ノ所有ニアラサルトキハ移轉許可ノ後直ニ寺有名義ニ引直スヘキ旨ノ立證ヲ要ス

一地方廳ヨリ移轉許可ヲ受ケタル後其許可ノ日ヨリ滿二年以内ニ移轉了ラサルトキハ地方廳ヨリ該移轉許可ヲ取消サルヘシ

但シ工事巨大ニシテ數年ニ互ルモノハ豫メ地方廳へ右期限ノ猶豫ヲ出願スヘシ

一移轉了リタルトキハ直ニ地方廳及本山へ移轉後ノ明細帳ヲ差出スヘシ

寺院移轉御添書願

何府市町 何縣郡村 何組 何寺

右寺維持上ノ都合ニ依リ今般何府市町何番地へ移轉ノ儀別紙ノ通り地方廳へ出願致度候條御添書御下附被成下度此段願上候也

年月日 右寺住職(又ハ兼務住職) 何

何府市町 何縣郡村 何寺住職

願 記・寺院移轉願之件

一地方廳宛願書ハ其理由如何ニ依リ文書一定シ難キヲ以テ書式ヲ設ケス

(現在地ノ法類) 法類 何 某◎

何府市町 何縣郡村 檀家總代 何 某◎

(現在地ノ檀家總代) (檀家總代連署スルコト) 何 某◎

何府市町 何縣郡村 何寺住職 何 某◎

(移轉先ノ法類) 法類 何 某◎

何府市町 何縣郡村 信徒總代 何 某◎

(移轉先ノ信徒總代) (信徒總代連署スルコト) 何 某◎

執行御中

但シ地方廳宛願書ニ連署スヘキ員數ハ前記御添書ノ例ニ同シ

移轉明細書(書式)

一移轉先ノ境内地 何坪 持主 何 某

但シ移轉御許可ノ上ハ別紙契約證ノ通り直チニ當時ノ所有名義ニ切換可致候

一移轉先ノ建物

本堂	梁桁行	何	間
庫裏	梁桁行	何	間
鐘樓	梁桁行	何	間
門	梁桁行	何	間

一永續基本財産 金何百圓又ハ田畑山林何町何反何畝何歩

一一年收入 米何石 信徒佛供米又ハ持添地取得米 金何圓 信徒懇志

一移轉先檀家又ハ信徒 何戸又ハ何名

一移轉費收支概算 移轉先境内買收費 一金何百圓也



願 記・寺院移轉願之件 建物再建又ハ改築願等之件

一金何百圓也 移轉先建物工事費  
一金何百圓也 移轉雜費

右費金ハ檀信徒寄附金又ハ何々ヲ以テ支辨可致候  
一當寺現境内地ハ移轉後境外所有地トシテ保存又ハ何々

一當寺現在ノ建物ハ移轉後賣却ノ上永續基本財産ニ編入又ハ何々  
右之通相違無之候也

何府市町  
何縣郡村

何寺住職(又ハ兼務住職)

年月日

何 某印

何府市町  
何縣郡村

檀家(又ハ信徒)總代

何 某印

(信徒總代連署スルコト)

(現在及移轉先雙方ノ壇信徒總代連署スルコト)

(組長及管事經由ノコト)

執行御中

○建物再建又ハ改築願等之件

一寺院建物ノ大部(本堂庫裏)燒失後滿五年以内ニ地方廳ノ許可ヲ得テ再建セサレハ廢寺處分ヲ受クヘキニ付右手續ヲ誤ラサル様注意スヘシ

但シ工事巨大又ハ其他ノ事情ニ依リ右期限内ニ落成シ難キトキハ豫メ地方廳へ延期出願スヘシ

一建物再建又ハ改築ヲ要スルトキハ地方廳宛再建願建築設計書並ニ建物圖面冥加金五圓相添へ御添書願出ツヘシ

(書式)

建物再建  
改築御添書願

何府市町  
何縣郡村

何組 何 寺

右寺本堂又ハ庫裏何年何月何日燒失(流失又ハ大破)ニ

付今般別紙ノ通り再建又ハ改築ノ儀地方廳へ出願致度候條御添書御下附被成下度此段願上候也

右寺住職(又ハ兼務住職)

年月日

何 某印

何府市町  
何縣郡村

檀家總代

何 某印

(檀家總代連署スルコト)

(組長及管事經由ノコト)

執行御中

一地方廳宛願書ハ其地方廳ノ内規アルヘキニ依リ一定ノ書式ヲ設ケ難シ尤モ地方廳宛願書ニ連署ノ員數ハ前記御添書願ノ例ニ同シ

一境内地變更、寺有地賣買、寺有地寄附、建物増築明細帳訂正等ニ關スル御添書願文例及連署者員數ハ前記再建御添書ノ例ニ準スヘシ但シ冥加上納ヲ要ス但シ寺有地ノ賣却ハ道路敷地其他公共事業ノ爲メ又ハ萬止ミ難キ理由アルニアラサレハ詮議相成ラサルニ付キ此旨組長ニ於テ篤ト注意スヘシ

○寺號記入並ニ木佛安置願之件

一地方廳ニ於テ寺號公稱許可ノ上ハ直ニ冥加金貳拾圓相添へ左記書式ニ依リ御記録記入願差出スヘキコト

(書式)

寺號記入願

何府市町  
何縣郡村

何組 何 寺

右寺寺號公稱ノ儀別紙指令ノ通地方廳ニ於テ許可相成候條御記録記入被成下度此段願上候也

年月日

(以下署名捺印者ハ最初  
寺號公稱出願當時ノ通)

(組長及管事經由ノコト)

執行御中

一木佛安置出願ノ者ハ冥加金拾圓相添へ左記木佛安置願ヲ差出シ其許可指令ヲ受ケ更ニ木佛尊像ヲ本山ニ

願 記・建物再建又ハ改築願等之件 寺號記入並ニ木佛安置願之件



願 記・寺號記入並ニ木佛安置願之件

供奉シ點檢出願シ御札下附ヲ請フヘシ  
一木佛御札水火盜難紛失等ノ節ハ冥加金五圓相添へ申換(再下)出願スルコトヲ得

(書式)

木佛安置願

何府市町  
何縣郡村

何組 何 寺

今般木佛尊像御安置仕度候條御開届被成下度此段願上候也

右何寺住職

年月日

何

某印

(新寺建立ノ節ハ豫約住職又ハ兼務住職調印)

何府市町  
何縣郡村

檀家總代

何 某印

(檀家總代連署スルコト)

(組長及管事經由ノコト)

執行 御 中

木佛尊像御點檢願

何年何月何日本佛安置御許可相成候ニ付木佛尊像御點檢ノ上御札御下附被成下度此段願上候也

何府市町  
何縣郡村

何寺住職(又ハ兼務住職)

年月日

何

某印

(組長及管事經由ノコト)

執行 御 中

木佛御札申換願

從來安置ノ木佛御札何々(水火盜難紛失等ノ)事故ヲ記スヘシ)ニ付今般更ニ御下附被成下度願上候也

何府市町  
何縣郡村

何寺住職(又ハ兼務住職)

年月日

何

某印

(組長及管事經由ノコト)

執行 御 中

○御影自影願之件

一一般末寺ハ必ス五尊(木佛尊像御開山御影太子)ヲ安置スヘシ

一一般末寺へ依願御授與ノ御開山御影ハ三番形トス但シ堂班餘之間以上ハ一番形又ハ無圖御影ニ、脇之間以下ハ二番形御影ニ御掛替若クハ申替ヲ出願スルコトヲ得

一宗祖大師號御影ハ餘之間以上へ無圖乃至一番形ヲ、中宗大師號御影又ハ御歷代及前住上人連座御影ハ餘之間以上へ三番形、脇之間以下へ四番形依願授與セラル

一御開山一番形眞向御影ハ慶應三年以前ニ餘之間以上タリシ末寺又ハ慶應三年以前脇之間以下ニシテ現今本座二等以上トナレル末寺へ依願授與セラル

一御繪傳ハ堂班ニ關スル區別ナシ

一御歷代御影又ハ御歷代及前住上人連座御影ハ餘之間以上へ三番形、脇之間以下へ四番形依願授與セラル

但シ祖師蓮師御連座又ハ蓮師ト蓮師以前ノ御歷代連座御影ハ授與相成ラス

一前住上人御影ハ餘之間以上へ二番形又ハ三番形、脇之間以下へ四番形依願授與セラル

願 記・御影自影願之件

一御影寄進人ハ願ニ依リ御影御授與達書ニ其法名ヲ記入セラル、コトヲ得

一自影願ニハ必ス其本人ノ面像及製裝章ヲ添附スヘシ

(書式)

御 影 願

金襴又ハ綾地何番形

一何大師又ハ何上人御影

右御影御安置仕度候條御授與被下度此段願上候也

何府市町  
何縣郡村

何寺住職(又ハ兼務住職)

年月日

願主 何

某印

(寄進人門徒中、同行中)又ハ法名ヲ記載スヘシ)

(無住且ツ兼務ナキトキハ檀家總代法類ヨリ出願スヘシ)

(組長及管事經由ノコト)

執行 御 中

御影申換願

金襴又ハ綾地何番形

一何大師又ハ何上人御影



願 記・御影自影願之件 二物願之件

右御影御安置致居候處(水火盜難又ハ御破損)ニ付今般更ニ御授與被成下度此段願上候也

何府市町  
何縣郡村

年月日

願主 何

某

(寄進人門徒中、同行中)  
又ハ法名ヲ記載スヘシ

(無住且ツ兼務ナキトキハ檀)  
家總代法類ヨリ出願スヘシ

(組長及管事經由ノコト)

執行御中

自影願

院房座號

何年何月何日死亡

釋何々像

年齢何年何ヶ月

衣體堂班何五條袈裟何色衣、切袴

但シ本人存生中許可ノ衣體ヲ記スヘシ

右自影安置致度候條御授與被成下度面像相添へ此段奉願候也

何府市町  
何縣郡村

何寺住職(又ハ兼務住職)

年月日

願主 何

某

(無住且ツ兼務ナキトキハ檀)  
家總代法類ヨリ出願スヘシ

(組長及管事經由ノコト)

執行御中

〇二物願之件

一、二物ハ永代内陣本座二等以上ノ末寺及末寺支坊ニ

限リ依願許可セラル

(書式)

二物願

何府市町  
何縣郡村

何組 何 寺

堂班永代何々

今般該寺へ天蓋禮盤備付仕度候條御許可被成下度此段願上候也

右寺住職

年月日

某

(組長及管事經由ノコト)

執行御中

〇教會講社設立認可申請之件

一教會講社設立志願ノ者ハ左記ノ通り申請スヘシ

(書式)

何(教會、講、社)設立認可申請

何府市町  
何縣郡村

何 會(講又ハ社)

今般法義相續ノ爲メ有志ノ者協議ノ上前記ノ(教會、講、社)設立致度候ニ付キ御差支無之候ハ、御許可被成下度別紙規則書並ニ(教會、講、社)員名簿相添へ此段願上候也

年月日

願 記・二物願之件 教會講社設立認可申請之件

何府市町  
何縣郡村

何寺住職(又ハ衆徒、但シ教師)

豫定擔當者 何 某

何府市町  
何縣郡村

設立者 何 某

一、(組長及管事經由ノコト)

執行御中

追テ同時ニ教會講社長御印章下附希望者ハ前記書式末尾ヲ左記ノ通り認ムヘシ

左記

「御認可ノ上教會、講、社、長御印章御下附被成下度規則書(教會、講、社)員名簿相添へ此段願上候也」  
以下前ニ同シ

一設立者全部連署ヲ要ス



願 記・教會講社職員任命之件 托鉢願之件

○教會講社職員任命之件

一教會講社設立認可ノ上ハ左記書式ニ依リ申請スヘシ  
何(教會、講、社)職員任命申請

何府市町  
何縣郡村

何寺住職(又ハ衆徒但シ教師)

擔當者 何 某

何府市町  
何縣郡村

何々(職名) 何 某

今般何(教會、講、社)設立御認可相成候ニ就テハ右之  
通職員推選致シ候ニ付キ御詮議ノ上頭書ノ通り御任命  
被成下度此段願上候也

年月日

何府市町  
何縣郡村

何寺住職(又ハ衆徒但シ教師)

豫定擔當者 何 某  
(組長及管事經由ノコト)  
執行御中

○托鉢願之件

一托鉢免許證ハ必ス三名以上共同出願スヘシ  
但シ前ニ免許證下附濟ノ者ニ參加シ三名以上ニ達  
スル場合ニハ一名又ハ二名ニテ出願スルコトヲ得  
一右免許證下附出願者ハ一名ニ付冥加金參圓並ニ戶籍  
抄本相添ヘ左記願書ヲ差出スヘシ  
(書式)

托鉢免許證下附願

私共何名(三名)又ハ私儀何府市町縣郡  
以上(村何寺住職何某ト共ニ)今般托鉢規程  
ニ基キ托鉢ヲ行ヒ度候間免許證御下附被成下度此段願  
上候也

願 記・托鉢願之件

何府市町  
何縣郡村

何寺住職(副住職前住  
職又ハ衆徒)

年月日

何 某  
(三名連署)

(前ニ免許證下附ノ者ニ參加  
スル場合ニハ一名又ハ二名)

(組長及管事經由ノコト)

執行御中



財團・護持會財團設立許可之件 眞宗本願寺派護持會財團寄附行爲

○護持會財團設立許可之件

(明治三十三年十一月 告示第三十二號)

本年法度第十一號ニ依リ護持會財團設立ノ儀其筋へ御願立相成候處別紙之通許可相成ル

內務省令京戊第九五號

京都市下京區堀川通本願寺門前町

眞宗本山本願寺門跡

伯爵 大谷 光尊

明治三十三年九月二十九日付眞宗本願寺派護持會財團之件民法第三十四條ニ依リ許可ス

明治三十三年十二月七日

內務大臣文學博士男爵 末松謙澄 澄園

財團設立御許可申請書

今般別紙寄附行爲趣意ノ通り財團設立致候ニ付御許可被成下度民法第三十四條ニ依リ此段申請候也

明治三十三年九月二十九日

京都市下京區堀川通本願寺門前町  
眞宗本山本願寺門跡  
伯爵 大谷 光尊  
內務大臣侯爵西郷從道殿

○眞宗本願寺派護持會財團寄附行爲

第一章 目的

第一條 本財團ハ眞宗本願寺派ノ布教(宗教)及興學(學術)ノ發達ヲ企圖スル爲メ之カ必要ノ費用ヲ支辨スルヲ以テ目的ト爲ス

第二章 名稱

第二條 本財團ハ眞宗本願寺派護持會財團ト稱ス

第三章 事務所

第三條 本財團ノ事務所ハ京都府京都市下京區堀川通門前町一番戸眞宗本願寺寺派本願寺寺内ニ設置ス

第四章 資産ニ關スル規定

財團

眞宗本願寺派護持會財團設立許可之件	三三六	眞宗本願寺派本山法要財團設立條例	三三九
眞宗本願寺派護持會財團寄附行爲	三三七	眞宗本願寺派本山法要財團設立許可之件	三三〇
大日本佛教慈善會財團設立許可之件	三三九	眞宗本願寺派本山法要財團寄附行爲	三六一
大日本佛教慈善會財團寄附行爲	三三九	龍谷大學財團設立條例	三三三
大日本佛教慈善會財團處務規程	三三三	龍谷大學財團設立許可之件	三三四
大日本佛教慈善會財團細則	三三四	龍谷大學財團寄附行爲	三三五
大日本佛教慈善會財團記章規則	三三五	京都女子高等專門學校維持財團設立許可之件	三三八
本願寺人事相談所規程	三三六	京都女子高等專門學校維持財團寄附行爲	三三八
本末共保財團設立條例	三三六	京都女子高等專門學校維持財團寄附行爲	三三八
本末共保財團設立許可之件	三三七	本願寺派本願寺愛護財團設立條例	三三九
本末共保財團寄附行爲	三三八	本願寺派本願寺愛護財團設立許可之件	三三九
本末共保財團事務規程	三三三	本願寺派本願寺愛護財團寄附行爲	三三九
本末基金果實處分手續	三三三	本願寺派本願寺愛護財團寄附行爲	三三九
非常準備金下附規程	三三三	眞宗學研究財團設立條例	三三九
財團法人設立準則	三三三	眞宗學研究財團設立許可之件	三三九
本願寺内外布教會財團設立條例	三三六	眞宗學研究財團寄附行爲	三三九
本願寺内外布教會財團設立許可之件	三三六	眞宗學研究財團寄附行爲	三三九
本願寺内外布教會財團寄附行爲	三三七	北米開教財團設立條例	三三六



第四條 本財團ハ寄附行爲ニ依ル資産金壹百參拾萬八千圓ヲ以テ設立セラル、モノトス

前項ノ資産ハ寄贈金(第六條)及果實剩餘(第九條)ノ編入ニ依リ漸次之ヲ増殖シ總額金貳百萬圓ニ達スルヲ期スヘシ

第五條 本財團設立者ノ氏名及身分並ニ設立者ノ爲セル寄附行爲ニ依ル金額ノ内譯左ノ如シ

一金壹百參拾萬八千圓 總 額

内 譯

金壹百參拾萬八千圓 國債證券額面

設立者

眞宗本願寺派本願寺門跡

伯爵 大 谷 光 尊

第六條 本財團ノ目的ヲ賛成スル者ハ眞宗本願寺派ノ門末ト否トヲ問ハス本財團ニ資財ヲ寄贈スルコトヲ得

前項ノ寄贈金ハ本財團ノ基本金ニ之ヲ編入スヘシ

第七條 本財團ハ何人ヲ問ハス資財ヲ寄贈スル者アルトキハ生前處分ト遺言トヲ論セス之ヲ受納シ其寄贈者ノ氏名ハ本財團ノ帳簿ニ記入シ其寄贈者又ハ遺言

財 團・眞宗本願寺派護持會財團寄附行爲

執行者ニ對シ領收證ヲ交付ス

第八條 基本金ハ常ニ國債證券又ハ三府ノ市公債ニ換ヘ日本銀行ニ保護寄託ヲ爲スモノトス

但其金額公債ニ換フルニ不足ナル場合ハ其不足ナル期間ニ限り銀行預金ノ方法ニ依リ之ヲ管理スルモノトス

第九條 本財團ノ資産ハ如何ナル場合ト雖モ之ヲ費消スルコトヲ得ス本財團ノ資産ヨリ生スル果實ハ其五分ノ四以内ヲ眞宗本願寺派興學布教ノ費用ニ其五分ノ一以内ヲ本財團ノ管理維持ノ費用ニ充テ剩餘アルトキハ總テ之ヲ資産ニ編入スヘシ但資産總額貳百萬圓ニ達シタルトキハ評議員會ノ議決ニ依リ其果實ヲ處分スルモノトス

第十條 本財團ノ會計年度ハ毎年一月ニ始リ十二月ニ終ル毎年度ノ決算ハ其翌年一月ニ於テ理事ヨリ評議員會ニ報告シ承認ヲ求ムヘシ

第五章 役員ニ關スル規定

第十一條 本財團ニ評議員二十名以内(内半数僧侶)理事一名常務員二名監事三名及書記若干名ヲ置ク

第十二條 評議員理事常務員及監事ハ設立者ニ於テ書



財團・眞宗本願寺派護持會財團寄附行爲

- 記ハ理事ニ於テ之ヲ任免ス
- 理事及常務員タル者ハ評議員タル者ニ限ル
- 第十三條 評議員理事常務員監事ノ任期ハ滿三ヶ年トス但再任セラルハコトヲ得
- 第十四條 評議員理事常務員監事ハ設立者ニ於テ不適當ト認ムルトキハ何時ニテモ解任スルコトヲ得
- 第十五條 評議員理事常務員監事交代ノ場合ハ前任者ハ後任者ノ就職スルニ至ル迄執務スヘシ但設立者ニ於テ執務ヲ禁シタル場合ハ此限リニ在ラス
- 第十六條 評議員理事常務員監事補缺ノ場合ニ於ケル後任者ハ前任者ノ殘任期間在職スルモノトス
- 第十七條 評議員ハ評議員會ニ出席シ其議員タルノ職務ヲ行フ理事ハ民法ニ規定セル職務ノ外評議員會ニ於テ議長ノ職務ヲ行フ
- 第十八條 常務員ハ理事ノ指揮ヲ受ケ書記ハ理事及常務員ノ指揮ヲ受ケ各其事務ニ從事ス
- 第十九條 評議員理事常務員監事書記ニ對シテハ評議員會ノ定メタル金額ヲ手當トシテ給與ス
- 第六章 會議ニ關スル規定
- 第二十條 本財團ニ評議員會ヲ置キ第八條第九條第十

- 條第十九條第二十八條第二十九條其他重要ト認ムル事項ヲ議決セシム
- 評議員會ノ議決ヲ經ヘキ事項ハ理事ニ於テ之ヲ專決處分スルヲ得ス
- 評議員會ハ定式及臨時ノ二種トス
- 第二十一條 定式評議員會ハ毎年一月臨時評議員會ハ必要ノ場合ニ之ヲ開ク
- 第二十二條 評議員會ノ招集ハ開會ノ日ヨリ起算シ一週間以前ニ議題ヲ添付シ招集狀ヲ發ス
- 第二十三條 評議員會ノ招集權ヲ有スル者ハ設立者理事ノ二者トス
- 第二十四條 評議員會ハ評議員總數四分ノ三以上出席スルニアラサレハ開會スルコトヲ得ス但招集再回ニ及フモ其數ニ充タサルトキハ此限ニ非ス
- 第二十五條 評議員會ノ議決ハ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可相半スルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
- 第二十六條 總テ評議員會ノ議決ハ設立者ノ承認ヲ經テ之ヲ施行ス
- 第七章 附 則
- 第二十七條 設立者ノ權利ハ本願寺門跡繼承人之ヲ繼

○大日本佛敎慈善會財團設立許可之件

(明治三十四年九月 告示第二十六號)

今般大日本佛敎慈善會財團設立ノ儀其筋へ御願立相成候處別紙ノ通許可相成ル

(別紙)

財團・眞宗本願寺派護持會財團寄附行爲 大日本佛敎慈善會財團設立許可之件

承ス

- 第二十八條 本財團寄附行爲中第一條、第四條及設立者ノ權利行使ニ關スル規定ハ之ヲ改廢スル事ヲ得其他ノ規定ハ評議員會出席者總數同意ノ決議ヲ以テ設立者ノ同意ト主務官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ變更スル事ヲ得
- 第二十九條 本財團ノ處務細則ハ評議員會ニ於テ之ヲ定ム

内務省指令第六八號

京都市下京區堀川通本願寺門前町 設立者總代

伯爵 大谷 光 尊

外十三名

明治三十四年六月二十二日申請大日本佛敎慈善會設立ノ件

右民法第三十四條ニ依リ許可ス

但シ事業着手ノ際豫メ規則ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

明治三十四年九月二十一日

内務大臣男爵 内海 忠 勝 印  
 司法大臣 清 浦 奎 吾 印  
 文部大臣理學博士 菊 地 大 麓 印

財團法人設立御許可申請書

今般別紙寄附行爲趣意之通設立致度候ニ付御許可被成下度民法第三十四條ニ依リ此段申請候也

明治三十四年六月二十二日

京都市下京區堀川通本願寺門前町



財團・大日本佛教慈善會財團設立許可之件

眞宗本山本願寺門跡  
 申請人總代 伯爵 大谷 光尊  
 京都市上京區聖護院町三十二番地  
 寄留  
 同 武田 篤初  
 山口縣周防國大島郡久賀村三百三十二番地  
 同 大洲 鐵然  
 大阪市南區鯉谷東ノ町百九十五番地  
 同 小田 尊順  
 東京市麴町區中六番町六番地  
 同 島地 默雷  
 京都市下京區御前通西洞院東へ入  
 蛭子水町十二番戸寄留  
 同 赤松 連城  
 京都市下京區新門前通大和大路東  
 入梅本町五十七番戸  
 同 池田 清助  
 京都市下京區烏丸通高辻下ノ藥師  
 前町一番戸

同 飯田 新兵衛  
 大阪市南區順慶町四丁目八十六番  
 屋敷  
 同 龜岡 德太郎  
 京都市下京區高辻大宮町十九番戸  
 同 芝原 嘉兵衛  
 大阪市東區南本町一丁目百二十番  
 屋敷  
 同 阿部 市郎兵衛  
 兵庫縣川邊郡伊丹町ノ内伊丹町九  
 百五十六番邸  
 同 小西 新右衛門  
 兵庫縣印南郡伊保村ノ内今市村八  
 十一番邸  
 同 伊藤 長次郎  
 滋賀縣犬上郡豐郷村ノ内八目村十  
 二番地  
 同 伊藤 忠兵衛  
 内務大臣男爵内海忠勝殿

○大日本佛教慈善會財團寄附行爲

第一章 目的

第一條 本財團ハ佛教ノ本旨ニ基キ慈善ノ行爲ヲ振興  
 シ社會ノ福祉ヲ増進スル爲メ左ノ事業ヲ行フヲ目的  
 トス

- 一、貧者施療
- 二、孤兒貧兒ノ養育其他一般細民ノ教育
- 三、罹災救助
- 四、感 化
- 五、免囚保護
- 六、布教費補助
- 七、學校補助金
- 八、其他必要ナル社會ノ福祉ニ關スル事業

第二章 名 稱

第二條 本財團ハ大日本佛教慈善會財團ト稱ス

第三章 事務所

財團・大日本佛教慈善會財團寄附行爲

第三條 本財團ノ事務所ハ京都市ニ置ク

第四章 資 産

第四條 本財團ハ左ノ資産ヲ以テ成立ス

- 一金壹百萬參百壹圓參拾錢七厘
- 一金壹萬五千九百圓 公債證書
- 一金六千五百八拾圓貳拾貳錢 起業銀行寄託
- 一金參百八拾圓六拾九錢 京都銀行寄託
- 一金九拾七萬七千四百四拾圓參拾九錢七厘 契約未納高

第五條 前條ノ資産及財團ニ對スル寄附金ニ依リ基金  
 金五百萬圓以上ヲ得ンコトヲ期ス

第六條 本財團ノ設立者設立財産ノ寄贈者及將來本財  
 團ニ資産ヲ寄附シタルモノハ總テ會員ト稱シ其ノ出  
 金額ニ依リ左ノ六種ニ分ツ

- 特別名譽會員 聲望世ニ秀テ本財團ノ目的ヲ  
 賛成スル者
- 名譽會員 金壹萬圓以上出金セシ者
- 有功會員 金壹千圓以上出金セシ者
- 特別會員 金壹百圓以上出金セシ者
- 通常會員 金拾圓以上出金セシ者



財團・大日本佛教慈善會財團寄附行爲

- 贊助會員 金拾圓未滿出金セシ者
- 第七條 通常會員以上ニハ記章ヲ交付スヘシ記章ヲ携帶スル者ニ對シテハ本財團ニ於テ相當ノ待遇ヲナス
- 第八條 本財團ニ資財ヲ寄附スル者アル時ハ之ヲ收納ニ編入シ之ニ對シ謝狀ヲ贈リ報告書又ハ新聞紙ニ之ヲ記載スヘシ
- 第九條 本財團ノ資産ハ之ヲ資本部及常用部ノ二ニ分ツ
- 第十條 資本部ハ本財團ノ資産及寄附金ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ニ當テ本財團ノ基金トナシ國債及地方債證券ヲ買入レ之ヲ利殖ス
- 第十一條 基金ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ其利殖金ハ之ヲ常用部ニ移入スルコトヲ得
- 第十二條 常用部ハ資産及寄附金ノ四分ノ一以下及基金ノ利殖金ヲ受ケ本財團ノ維持及事業ノ經費ニ使用ス
- 第十三條 基金金五百萬圓ニ滿チタル爾後ノ寄附金及利殖金ハ評議員會ノ議決ヲ經テ資本常用ノ區分ヲ定

- 第十四條 本財團ノ會計年度ハ毎年一月一日ニ始リ同年十二月三十一日ニ終ル
- 第十五條 本財團ノ資産ノ出納ハ評議員會ノ承認ヲ經テ翌年五月末日迄ニ公告スヘシ
- 第五章 理事其他ノ役員及評議員會
- 第十六條 本財團ニ總裁一名ヲ置キ眞宗本願寺派本願寺法主ヲ以テ之ニ充ツ
- 第十七條 本財團ニ理事五名監事三名ヲ置ク
- 第十八條 理事及監事ハ評議員中ヨリ總裁ヲ特選ス其ノ任期ハ評議員ノ任期ニ從フモノトス
- 第十九條 理事ハ評議員會ニテ適當ト認メタル時ハ任期ニ拘ラス總裁ヲ解任スルコトヲ得
- 第二十條 理事中ヨリ總裁ノ特選ヲ以テ理事長一名ヲ置ク
- 第二十一條 理事長ハ本財團ヲ代表シ一切ノ事務ヲ處理シ事務員以下ヲ任免ス理事長事故アル時ハ總裁ノ指名ニ依リ理事ノ一名ヲ代理ス
- 第二十二條 理事ハ理事長ヲ補佐シ事務ニ從事ス
- 第二十三條 監事ハ本財團ノ資産及理事ノ業務執行ヲ

財團・大日本佛教慈善會財團寄附行爲 大日本佛教慈善會財團處務規程

- 監査ス其ノ不正ノ廉アルコトヲ發見シタル時ハ之レヲ總裁評議員會又ハ主務官廳ニ報告スヘシ
- 第二十四條 本財團ニ評議員百名ヲ置ク
- 第二十五條 評議員ハ設立ノ際ハ名譽會員有功會員特別會員中ヨリ設立者之ヲ選ミ爾後ハ總裁之ヲ特選ス
- 第二十六條 評議員ノ任期ハ四年トス但再任ヲ妨ケス補缺ノ爲メ特選セラレシモノハ前任者ノ任期ニ依リ理事監事及評議員滿期ノ場合ニ於テモ後任者就職マテハ在職スルモノトス
- 第二十七條 評議員會ハ毎年一回之ヲ開キ理事之ヲ召集ス其議事ハ過半數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル處ニヨリ又理事ニ於テ必要アリト認メタルトキ及監事ノ請求アリタルトキ臨時會ヲ開クコトアルヘシ但出席員四分ノ一ニ滿タサルトキハ開會スルヲ得ス
- 第二十八條 評議員會ノ會長ハ每會評議員ノ互選ニヨル
- 第二十九條 事業ノ著手順序時期場所毎年ノ豫算ハ評議員會ノ決議ヲ經總裁ノ認可ヲ得テ理事之ヲ定ム
- 第三十條 一國又ハ一地方ニ於テ金五萬圓以上ヲ出金

- シタルトキハ理事長ハ前條ノ順序ヲ經テ其區域ニ於テ其出金額ニ對スル常用部ノ金額ヲ以テ財團ノ事業ヲ行フコトヲ得
- シタルトキハ理事長ハ前條ノ順序ヲ經テ其區域ニ於テ其出金額ニ對スル常用部ノ金額ヲ以テ財團ノ事業ヲ行フコトヲ得
- 大日本佛教慈善會財團處務規程  
(明治三十四年十月 告示第二十七號)
- 第一條 理事長及理事ハ寄附行爲ニ依リ本財團ノ事務ニ關シ其實ニ任ス
- 第二條 理事ハ理事長ヲ補佐シ事務員ヲ指揮シ本財團ノ事務ニ從事ス
- 第三條 監事ハ寄附行爲第二十三條ニ依リテ監査ノ責ニ任ス
- 第四條 本財團ニ獎勵庶務出納ノ三部ヲ置ク
- 第五條 事務員中ニ參務一名書記若干名ヲ置キ各部ノ事務ニ從ハシム



財 團・大日本佛教慈善會財團處務規程 大日本佛教慈善會財團細則

第六條 毎年定期評議員會ニ於テ前年度ノ決算ヲ報告シ其次年度ノ豫算ヲ議決ス

第七條 豫算ノ様式ヲ定ムルコト別表ノ如シ但各項流用ヲ許サス

第八條 豫備費ハ豫算ノ不足又ハ避ク可ラサル豫算外ニ生シタル必要ノ費途ニ充ツ

(別表略ス)

○大日本佛教慈善會財團細則

(明治三十四年十月 告示第二十八號)

第一條 金圓ノ寄附ハ一時即納スルモ又十ヶ年以内ニ納付スルモ申込者ノ隨意タルヘシ但シ一時即納者ハ二割ヲ減ス

第二條 本財團ハ金員物品ノ寄附ヲ受ケタルトキハ一定ノ領收證ヲ交附スヘシ

第三條 年賦金ノ一ヶ年分ヲ領收シタルトキハ本財團ハ規定ノ會員別ニ準シ記章ヲ交附スヘシ

第四條 理事及事務員ハ評議員會ノ定ムル所ニ依リ相當ノ報酬ヲ受ク

第五條 監事評議員ハ總テ名譽職トス但シ評議員會ノ定ムル所ニ依リ報酬又ハ旅費日當ヲ受クルコトアルヘシ

第六條 定期評議員會ハ毎年一月ニ開會ス

第七條 評議員會召集ハ開會ノ日ヨリ起算シ少ナクトモ十四日以前ニ召集狀ヲ發スヘシ但シ召集狀ハ總テ理事長ノ名義ヲ以テ之ヲ發ス

第八條 評議員會ハ總數四分ノ一以上(理事監事ヲ包含ス)出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス

第九條 寄附行爲第十九條ニ關スル事項ヲ議スル場合ニハ理事ハ會議ニ干與スルコトヲ得ス

第十條 會議ノ議決ハ總テ總裁ノ承認ヲ經テ之ヲ施行スヘシ

第十一條 寄附行爲第十二條ノ場合ニ依テハ其地方常用部ノ中ニ就テ本財團維持費ヲ控除ス

○大日本佛教慈善會財團記章規則

(明治三十八年十月 告示第二十九號)

第一條 本財團寄附行爲第七條ニ基キ記章ヲ設ク

第二條 記章ハ寄附行爲第六條規定ノ六種ニ區分シ總色目ヲ十一級ニ分チ寄附金分納一ヶ年以上ヲ納メタル者ニ付與ス但シ寄附金ノ殘額ヲ納付セサル者ハ付與シタル記章ヲ返附セシメ更ニ第三條ニ相當スル記章ヲ付與ス

第三條 記章製圖類別ハ左ノ如シ

表 丸形ニ下リ藤ヲ彫刻シ慈ノ一字篆書ニテ挿入ス

裏 大日本佛教慈善會財團何々會員第何種

金拾 圓已上	摺紙 水色
金參拾圓已上	七寶 同 白茶
金七拾圓已上	同 同 白鵝

財 團・大日本佛教慈善會財團記章規則

特別會員	金壹百圓已上	同	黃
	金參百圓已上	同	茶
	金七百圓已上	同	萌黃
有功會員	金壹千圓已上	同	白
	金參千圓已上	同	緋
	金七千圓已上	同	紫
名譽會員	金壹萬圓已上	同	金銀
特別名譽會員	金	同	金

第四條 下級記章ヲ有スル者ニシテ進テ上級ノ申込ヲナストキハ上級記章ト交換スヘシ

第五條 記章ヲ紛失セシトキハ會員二名以上ノ連署ヲ以テ更ニ請求スヘシ本財團ハ事實調査ノ上記章ヲ交付スヘシ但シ調製費ハ本人ノ負擔タルヘシ



財團・本願寺人事相談所規程 本末共保財團設立條例

○本願寺人事相談所規程

(大正十五年四月 告示第六號)

- 第一條 大日本佛教慈善會財團ニ人事相談所ヲ設ケ本願寺人事相談所ト稱ス
- 第二條 本所ハ京都市油小路通七條上ル米屋町ニ置ク
- 第三條 本所ハ貧困失職其他特殊ノ事情ニ依リ困難スル者又ハ本山參拜者等ニ對シ救助保護指示等ノコトニ任ス
- 第四條 本所ニ於テ取扱フ事項左ノ如シ
  - 一 身上相談
  - 一 法律相談
  - 一 健康相談
  - 一 職業相談
  - 一 其他
- 第五條 本所ニ左ノ職員ヲ置ク
  - 主事 一名
  - 司事 若干名
  - 囑託 若干名
- 第六條 本所ノ經費ハ大日本佛教慈善會財團ノ負擔及

特志家ノ寄附ニヨル

第七條 本所員ハ取扱フ事件ニ對シテ懇切丁寧ヲ旨トシ且ツ當事者ノ名譽ヲ尊重シ事件ニ就テハ祕密ヲ嚴守スルモノトス

附則

本規程ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ實施ス

○本末共保財團設立條例

(明治三十九年三月 法度第十號)

- 第一條 宗祖太師六百五十年大御遠忌記念ノ爲メ本末共保財團ヲ設立ス
- 第二條 本末共保財團ハ本山別院末寺說教所及教會講社ノ維持資金ヲ積立テ一派本末基礎ノ安全ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第三條 前條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ方法ヲ以テ資金

附則

此法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○本末共保財團設立許可之件

(明治四十年六月 告示第十一號)

改正 大正五、四

今般本末共保財團設立ノ儀其筋へ御願立相成候處別紙ノ通許可相成ル

内務省京戊第四一號

京都市下京區堀川通本願寺門前町

眞宗本願寺派本山本願寺門跡

伯爵 大谷 光 瑞

明治四十年四月申請本末共保財團設立ノ件

右民法第三十四條ニ依リ許可ス

明治四十年六月三日

内務大臣 原 敬 岡

財團・本末共保財團設立條例 本末共保財團設立許可之件

- ノ寄附ヲ受ク
- 一時又ハ數時現金ノ寄附一人ニテ毎年金壹圓八錢ツツ五年間繼續ノ寄附又ハ一時ニ金五圓四拾錢ノ寄附之ヲ一口ト稱ス但シ一人ニテ數千口又ハ二人ニテ一口ヲ納ムルモ寄附者ノ意思ニ任ス
- 第四條 資産ハ金五百四拾萬圓以上ヲ得ンコトヲ期ス
- 第五條 資産ハ之ヲ基金常用金ノ二ニ分ツ
- 第六條 基金ヲ本山基金ト別院末寺說教所教會講社基金トノ二ツニ分ツ
- 第七條 寄附金ハ之ヲ三分シテ一分ヲ本山基金一分ヲ別院末寺說教所教會講社ノ基金一分ヲ常用金ニ充ツ
- 本山基金常用金ニハ特ニ指定寄附ヲ受ク
- 第八條 常用金ハ別途ニ之ヲ蓄積シ本山ノ法要殿堂ノ維持教學ニ對スル臨時ノ費用及ヒ本財團ノ設立及基金豫定額ニ達スル迄ノ費用ヲ支辨スルモノトス
- 第九條 本財團事務所ハ京都市下京區堀川通本願寺門前町一番戸眞宗本願寺派本山本願寺ニ置ク
- 第十條 財團成立後ハ民法ノ規定ニ依ル
- 第十一條 募集規則及ヒ設立事務條例ハ教示ヲ以テ之ヲ定ム



財團・本末共保財團設立許可之件 本末共保財團寄附行爲

財團法人設立御許可申請書

今般別紙寄附行爲趣意之通設立致度候ニ付御許可被成  
下度民法第三十四條ニ依リ此段申請候也

明治四十年四月

京都市下京區堀川通本願寺門前町

眞宗本願寺派本山本願寺門跡

設立申請人 伯爵 大谷 光 瑞團

第三章 事務所

第三條 本財團事務所ハ京都市下京區堀川通本願寺門  
前町一番戸本願寺派本山本願寺ニ置ク

第四章 資産

第四條 本財團ハ左ノ資産ヲ以テ成立ス  
金貳拾四萬貳千四百參拾六圓五拾四錢壹厘

第五條 本財團ノ資産ハ前條ノ設立資産並將來本財團  
ニ對スル寄附金ニ依リ總額金五百四拾萬圓以上ヲ得  
ンコトヲ期ス

第六條 本財團ノ資産ハ基金常用金ノ二ニ分ツ

第七條 前條基金ヲ本山基金ト別院末寺說教所及教會  
講社基金トノ二ニ分ツ

第八條 本山基金ハ別院末寺說教所及其檀信徒教會講  
社及教會講社員並ニ本財團趣意贊成者ヨリ本財團ニ  
對スル寄附金三分ノ一又ハ本山直門徒ヨリ同斷寄附  
金三分ノ二又ハ指定寄附金ヲ以テ之ニ編入ス

第九條 別院末寺說教所及教會講社基金ハ別院末寺說  
教所及其檀信徒教會講社及教會講社員並ニ本財團趣  
意贊成者ヨリ本財團ニ對スル寄附金三分ノ一又ハ指

○本末共保財團寄附行爲

第一章 名 稱

第一條 本財團ハ本末共保財團ト稱ス

第二章 目 的

第二條 本財團ハ眞宗宗祖眞大師六百五十年大御遠  
忌記念ノ爲メ本願寺派本山別院末寺說教所及教會講  
社ノ維持資金ヲ積立テ一派本末基礎ノ安全ヲ圖ルヲ  
以テ目的トス

定寄附金ヲ以テ之ニ編入ス

第十條 別院末寺說教所及教會講社ニシテ明治三十九  
年一月一日以前ニ於テ資金ヲ積立テアルモノハ其資  
金ノ一部若クハ全分ヲ第十四條第二項ノ目的ニ從ヒ  
當該別院末寺說教所及教會講社ノ補助ニ供スル爲メ  
別院末寺說教所及教會講社基金ニ指定寄附スルコト  
ヲ得

第十一條 基金ハ國債證券又ハ確實ナル有價證券及ヒ  
土地山林ヲ買入レ若クハ確實ナル銀行ニ預ケ利殖ヲ  
圖ルモノトス

第十二條 基金ハ如何ナル事故アルモ之ヲ使用スルヲ  
得ス但シ第十七條ノ但書ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ  
アラス

第十三條 前條基金ヨリ生スル果實三十分ノ一ヲ毎年  
積立テ之ヲ非常準備金トス

第十四條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第十五條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第十六條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第十七條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第十八條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第十九條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第二十條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第二十一條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第二十二條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第二十三條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第二十四條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第二十五條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第二十六條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第二十七條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第二十八條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第二十九條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第三十條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

財團・本末共保財團寄附行爲

第三十一條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第三十二條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第三十三條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第三十四條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第三十五條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第三十六條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第三十七條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第三十八條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第三十九條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第四十條 前條非常準備金以外ニ於ケル基金ノ果實ハ  
會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム



財 團・本末共保財團寄附行爲

第十六條 常用金ハ別院末寺説教所及其檀信徒又ハ教會講社及教會講社員又ハ本山直門徒及ヒ本財團趣意賛成者ヨリ本財團ニ對スル寄附金三分ノ一並ニ指定寄附金ヲ以テ之レニ編入ス

第十七條 常用金ハ別途ニ之ヲ蓄積シ本山ノ法要殿堂ノ維持教學ニ對スル臨時ノ費用及本財團ノ設立及ヒ基金豫定額ニ達スル迄ノ費用ヲ支辨スルモノトス但シ常用金ニ不足ヲ生シタルトキハ其年度ニ於テ募集シタル基金ノ百分ノ二十以内ノ金額ヲ其年度ノ募集費ニ充ツルコトヲ得

第十八條 本財團ニ對スル寄附金ハ左ノ二類ノ方法ニ依ル者ヨリ之ヲ受ク

一、一時又ハ數時ニ現金ヲ寄附スル者

二、一人ニテ毎年金壹圓八錢宛ヲ五年繼續シテ納ル者又ハ五年分ヲ一時ニ納ル者此ノ一人ノ者ヲ一口ト稱ス

第十九條 前條第二類ノ寄附金ハ一人ニテ數千百口ヲ納ルモ又ハ二人ニテ一口ヲ納ルモ寄附者ノ意思ニ任ス

第二十條 本財團ニ對シ既ニ申込ミタル寄附申込額ハ

寄附者ノ都合ニ依リ取消又ハ減額ヲ承認スルコトアルヘシ

第二十一條 本財團ノ會計年度ハ毎年一月一日ニ始リ同年十二月三十一日ニ終ル

第二十二條 本財團ノ資産ノ出納ハ翌年定期評議員會ノ承諾ヲ經テ寄附者ニ公告スヘシ

第五章 總 裁

第二十三條 本財團ハ眞宗本願寺派本山本願寺法主ヲ以テ總裁ト定ム

第六章 役 員

第二十四條 本財團ニ理事三名監事三名ヲ置ク

第二十五條 理事監事ハ評議員中ヨリ總裁之ヲ特選ス其任期ハ評議員ノ任期ニ同シ

第二十六條 理事ニシテ評議員會ニ於テ不適當ト認メラレタルトキハ總裁ハ任期ニ拘ラス之ヲ解任スルコトヲ得

第二十七條 理事中ヨリ總裁ノ特選ヲ以テ理事長一名ヲ置ク

第二十八條 理事長ハ本財團ヲ代表シ本財團ノ事務ヲ處理シ事務員ヲ任免ス

財 團・本末共保財團寄附行爲

理事長事故アルトキハ理事長ノ指名ニ依リ他ノ理事其事務ヲ代理ス

第二十九條 理事ハ理事長ヲ補佐シ事務ニ從フ

第三十條 監事ハ本財團ノ資産及ヒ理事ノ事務執行ヲ監査ス其不正ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ總裁評議員會又ハ宗務官廳ニ報告ス

第三十一條 本財團ニ評議員三十名ヲ置ク

第三十二條 評議員ハ左ノ資格アル者ノ中ヨリ總裁之ヲ特選ス

一、第十八條第一號金壹千圓以上ノ寄附者

二、第十八條第二號參百圓以上ノ寄附者

三、末寺ニシテ住職及附屬檀信徒ノ寄附金ヲ合シテ前二號ノ中其一ノ金額ニ二倍以上ニ相當スルトキ其住職タル者

四、別院ニシテ前第三號ニ該當スルトキ其監院又ハ輪番別格別院ニシテ同斷ノトキ其住職又ハ法主兼務ノ時ニ於ケル檀事

五、説教所教會講社ニシテ本條第三號ニ該當スルトキ其代表者

第三十三條 評議員ノ任期ハ四年トス但シ再任ヲ妨ケ

ス補缺者ハ前任者ノ任期ニ依ル

第三十四條 理事監事評議員滿期ノトキト雖モ後任者就職セサル間ハ其職ヲ去ルヲ得ス

第三十五條 評議員會ハ毎年一回之ヲ開キ理事長ヨリ召集ス前項ニ拘ハラス理事長ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ監事ノ請求アリタルトキハ臨時會ヲ開クコトアルヘシ

第三十六條 評議員會ノ議事ハ理事長議長トナリ過半数ニ依リ之ヲ決ス

第三十七條 評議員會ハ出席者總員四分ノ一以上ニ達セサルトキハ開會スルヲ得ス

第三十八條 本財團事業ノ順序方法常用金利殖金支出豫算ハ評議員會ノ議ヲ經ヘキモノトス

第三十九條 理事監事評議員ニハ俸給ナシ但常務理事及事務員ニハ俸給ヲ附スルコトヲ得

第四十條 此ノ寄附行爲中第十二條ハ如何ナル場合ト雖トモ更改スルコトヲ得ス其ノ他ノ條項ハ評議員會出席者總員四分ノ三以上ノ決議ヲ以テ總裁ノ同意ヲ經、主務官廳ノ認可ヲ得テ更改スルコトヲ得



財 團・本末共保財團事務規程 本末基金果實處分手續

○本末共保財團事務規程 (明治四十年六月 告示第十三號)

改正 明治四三、二

- 第一條 理事長及理事ハ寄附行爲ニ依リ本財團ノ事務ニ關シ其責ニ任ス
- 第二條 理事ハ理事長ヲ補佐シ事務員ヲ指揮シテ本財團ノ事務ニ從事ス
- 第三條 監事ハ寄附行爲第二十九條ニ依テ監査ノ責ニ任ス
- 第四條 理事監事評議員ニハ俸給ナシ但評議員會ノ定ムル所ニ依リ報酬又ハ旅費日當ヲ受クルコトヲ得
- 第五條 本財團ニ左ノ事務員ヲ置ク
  - 一 主事 二名
  - 一 主事補 二名
  - 一 書記 若干名
- 第六條 主事ハ理事長理事ノ指揮監督ヲ受ケ事務ヲ掌ル
- 第七條 主事補ハ上職ノ指揮監督ヲ承ケ事務ヲ掌ル
- 第八條 書記ハ上職ノ指揮ヲ承ケ雜務ニ從事ス
- 第九條 事務上ノ必要ニ依リ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十條 事務員ニハ俸給ヲ給ス

第十一條 定期評議員會ニ於テ前年度ノ決算ヲ報告シ之カ承認ヲ求メ並ニ次年度ノ豫算ヲ議決セシム

第十二條 定期評議員會ハ毎年十一月、十二月ノ間ニ於テ開會ス

第十三條 評議員會ノ招集ハ開會ノ日ヨリ起算シ少クトモ七日以前ニ於テ其會議ノ目的事項ヲ示シ理事長ヨリ之ヲ招集ス

○本末基金果實處分手續

(明治四十四年一月) 改正 大正二、二 告示第一條

- 第一條 本手續ニ於ケル本末基金トハ寄附行爲第十七條但書規定ノ募集費ヲ控除シタルモノヲ云フ
- 第二條 本末基金ハ納金ノ翌年一月一日ヨリ果實ヲ附シ其年度ノ果實ヲ納金ノ翌々年三月一日ヨリ本財團

ニ於テ之ヲ支出ス但シ納金ノ年ニ於ケル利子ハ本財團ノ非常準備金ニ繰込ムモノトス

第三條 前條一二兩月間ノ果實ヨリ生スル果實ハ之ヲ本財團ノ雜收入トス

第四條 第二條支出ノ果實ハ寄附行爲第十三條ニ依リ其三十分ノ一ヲ非常準備金トシテ別途ニ積立テ三十分ノ二十九ヲ本末ニ交付ス但シ非常準備金ヨリ生スル利子ハ當該準備金ニ繰込ムモノトス

第五條 前條ノ非常準備金ノ下附ハ寄附行爲第十三條規定ノ罹災者ニシテ本山ノ證明アル者ニ對シ審査會ニ於テ其金額ヲ決定ス

審査會ハ左ノ委員ヲ以テ組織シ理事長之ヲ召集ス  
理事 三名  
評議員 四名(理事長指名)

第六條 本山基金ノ果實ハ寄附行爲第十四條ニ基キ本山執行所ヘ納付ス

第七條 末寺基金ノ果實ハ其末寺ノ基金ト確定スル金額ニ相當セルモノヲ其末寺ニ交付ス

第八條 前條ノ果實ハ本財團規定ノ領收書ニ別院ハ輪番若クハ監事及勘定末寺ハ住職及檀信徒總代カ豫テ

財 團・本末基金果實處分手續 非常準備金下附規程

○非常準備金下附規程 (大正二年八月 告示第二十六號)

第一條 非常準備金ハ明治四十三年一月基金發表以來ノ罹災末寺(別院、末寺、説教所、教金講社)ニシテ寄附行爲第十三條ニ該當スルモノハ之ヲ下付ス

第二條 非常準備金ハ罹災末寺ニシテ本山及地方廳ニ於テ再建ノ許可ヲ得タル時之カ下付願ヲ提出セシメ審査決定ノ上之ヲ下付ス但シ非常準備金下付願書ハ別紙雛形ニ依ル

第三條 非常準備金ノ下付ハ本末基金又ハ本山基金完



財團・非常準備金下附規程

納ノ末寺ニ限ル但シ募集期間ハ標準額以上個人申込書提出済ノモノモ本文ニ準ス

第四條 非常準備金ノ下付ハ基金發表以後完結迄ハ積立非常準備金中ヨリ之ヲ支出シ完結後ハ積立非常準備金ノ果實ヲ以テ之ヲ支出ス但シ積立非常準備金ノ果實ノミニシテ不足ノ場合ハ本末基金ヨリ生スル果實ノ三十分ノ一ヲモ併セ支出スル事ヲ得

第五條 非常準備金ノ下付ヲ受クヘキ建物ハ本堂又ハ庫裡ニ限ル

第六條 非常準備金ノ下付ハ其寺基金寄附額ヲ標準トシ罹災ノ程度ヲ斟酌シ審査會ニ於テ其金額ヲ決定ス

非常準備金下付願(雛形)

第 教區 國 郡市 町 村 寺

- 一、罹災建物ノ種類(本堂又ハ庫裡)及其各坪數
- 一、同 年時
- 一、同 種別(水火風震)
- 一、損害程度及損害見積額
- 一、再建着手ノ年時
- 一、同 種類及坪數

一、同 經費豫算高

一、本末基金標準額及其各納金額又ハ個人申込額

右ノ通りニ候條御調査ノ上非常準備金ヨリ再建補助金御下付被成下度地方廳再建許可指令寫相添此段願上候也

年 月 日

右 寺住職 …………… 印

同 檀家總代 …………… 印

同 …………… 印

同 …………… 印

本末共保財團御中

(附記)

- 一、本申請ハ組長與書所轄管事經由ノ事
- 一、審査會ノ調査材料トナルヘキ特殊事項ハ隨意記載(別紙ノ事)差支ナシ
- 一、別院、説教所、教會講社ハ前記様式ニ準スヘシ

○財團法人設立準則 (大正八年二月 法度第一號)

改正 大正二、七

第一條 本山、別院ニ關シ成立セル諸機關ヲ財團法人トナシ又ハ上記諸機關ノ維持ヲ目的トスル財團法人ヲ設立セントスルトキハ本則ニ據リ寄附行爲ヲ定メ本山ノ認可ヲ經ヘシ

第二條 財團ノ基本財産ハ使用スルヲ得ス

第三條 財團ノ基本財産ハ國債地方債ヲ以テ蓄積スルヲ原則トス

第四條 財團ニハ左ノ職員ヲ置クモノトス

總裁 一名

評議員 若干名

理事 若干名

監事 若干名

第五條 總裁ニハ管長ヲ推戴スヘシ

第六條 評議員ハ基金寄附者及本山事務員又ハ直接間接ニ財團ニ關係アルモノヨリ總裁之ヲ選任ス

第七條 評議員ノ任期ハ四年以内トス職務ノ資格ニ依リ評議員トナリタル者ハ其職務ヲ去リタル時評議員

財團・財團法人設立準則

ノ資格ヲ失フ凡テ缺員ヲ生シタル時ハ總裁ハ直ニ之ヲ補缺ヲナスヘシ

第八條 理事及監事ハ評議員ニ於テ互選スルヲ以テ原則トス但シ特殊ノ事情アル場合ハ此限ニアラス

第九條 理事ハ財團ノ事務ニ關シ責任ヲ負フモノトス

第十條 評議員ハ總員三分ノ二以上ノ出席アルニ非レハ開會スルヲ得ス若シ之ニ充タサレハ更ニ之ヲ召集スヘシ再召集ト雖總員ノ半數以上出席スルニ非レハ開會スルヲ得ス

第十一條 寄附行爲ノ更改及其他重要ナル規則ノ制定更改ハ理事會ノ立案ニ依リ評議員三分ノ二以上ノ同意ヲ經本山ノ認可ヲ得ルヲ要ス

第十二條 特別ノ事情ニ依リ本準則ニ據ルコト能ハサル時ハ理由ヲ具シ本山ノ許可ヲ受クヘシ

附 則

本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス



財團・本願寺内外布教會財團設立條例 本願寺内外布教會財團設立許可之件

○本願寺内外布教會財團設立條例

(大正十一年二月 法度第二號)

第一條 内國外國ニ於ケル布教傳道ノ健全ナル發展ヲ期シ基金ノ充實ヲ圖ル爲メ本願寺内外布教會財團ヲ設立ス

第二條 本財團ハ本山講教學資金中參拾萬圓ヲ受ケテ設立基金トシ漸次隨時ノ寄附金ヲ受ケテ基金ヲ増加ス

第三條 前條寄附金ハ本財團ノ目的ニ違反セサル限り寄附者ノ意思ニヨリ指定寄附ヲ受ルヲ得

但シ指定寄附ハ五千圓以上トス

第四條 本財團ノ基金ハ國債地方債ヲ以テ蓄積シ如何ナル場合ニモ之ヲ費消セス毎年度其ノ果實ノ百分ノ九十ヲ本願寺布教ノ費用トシテ回付シ其百分ノ十ヲ本財團ノ經費ニ充テ剩餘アルトキハ總テ基金ニ編入ス

第五條 本財團事務所ハ本山内ニ置ク

第六條 本財團ノ寄附行爲ハ民法及本派財團準則ニ由ルヘシ

附則 本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○本願寺内外布教會財團設立許可之件

(大正十二年三月 告示第九號)

今般本願寺内外布教會財團設立ノ件別記之通り文部大臣ヨリ許可相成ル

大正十二年三月十七日

執行長 松島善海

(別記)

文部省京宗一六號

京都市下京區堀川通花屋町下ル

本願寺門前町官有地

真宗本願寺派本願寺住職事務取扱

大谷尊由

大正十一年九月九日附申請財團法人設立ノ件許可

大正十二年二月二十六日

文部大臣 鎌田榮吉

財團法人設立認可申請書

今般別册寄附行爲ニ基キ本願寺内外布教會財團設立致度候間御許可相成度民法第三十四條ニ依リ此段申請候也

大正十一年九月九日

京都市下京區堀川通花屋町下ル

本願寺門前町官有地

真宗本願寺派本願寺住職事務取扱

設立申請人 大谷尊由

文部大臣 鎌田榮吉

第二章 名稱

第二條 本財團ハ本願寺内外布教會財團ト稱ス

第三章 事務所

第三條 本財團ノ事務所ハ京都市下京區堀川通花屋町下ル本願寺門前町官有地真宗本願寺派本願寺ニ置ク

第四章 資産

第四條 本財團ハ金參拾萬圓ノ資産ヲ以テ成立ス

第五條 資産ヲ分チテ基本財産ト經常財産トノ二トス

第六條 基本財産ハ第四條ニ掲ケル資産ヲ以テ之ニ充ツ將來受クルトコロノ寄附金品及經常財産ノ一部ハ評議員會ノ決議ヲ經テ何時ニテモ之ヲ基本財産ニ編入スルコトヲ得

第七條 本財團ニ對スル寄附カ不動産ナル時ハ寄附者ノ承諾ヲ得テ之ヲ賣却シ現金ニ換フルモノトス

第八條 寄附金ハ本財團ノ目的ニ違反セサル限り寄附者ノ意志ニ依リ指定寄附ヲナスコトヲ得但シ指定寄附金ハ金五千圓以上トス前項指定ノ目的ヲ達スルコト能ハサル事由發生ノ場合ハ評議員會ノ決議ニ依リ之ヲ處置ス

第九條 基本財産ハ奈何ナル事由アルモ之ヲ費消スル

○本願寺内外布教會財團寄附行爲

第一章 目的

第一條 本財團ハ内外ニ於ケル本願寺派布教傳道ノ發展ヲ圖ルヲ以テ目的トス

財團・本願寺内外布教會財團寄附行爲



財 團・本願寺内外布教會財團寄附行爲

コトヲ得ス  
 第十條 基本財産ニ屬スル現金ハ之ヲ公債證券ニ換ヘ  
 確實ナル銀行ニ寄託ス但シ金額五千圓未満ノ場合ハ  
 確實ナル銀行ニ預入ル、コトヲ得  
 第十一條 經常財産ハ基本財産ヨリ生スル果實及其他  
 ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ  
 第十二條 經常財産ハ其百分ノ九十ヲ眞宗本願寺派内  
 外布教傳道費トシテ本願寺派ニ寄贈シ其百分ノ十ヲ  
 本財團ノ經費ニ充ツルモノトス  
 第十三條 會計年度ハ毎年一月一日ニ始マリ十二月三  
 十一日ニ終ル  
 第五章 役員  
 第十四條 本財團ニ左ノ役員ヲ置ク  
 總裁 壹名  
 理事 參名  
 監事 貳名  
 評議員 貳拾名  
 第十五條 總裁ニハ眞宗本願寺派管長ヲ推戴ス  
 第十六條 理事及監事ハ本財團評議員中ヨリ總裁之ヲ  
 任用ス

理事ノ内壹名ヲ理事長トシ總裁之ヲ選任ス  
 第十七條 評議員ハ眞宗本願寺派本山事務員及本山勘  
 定又ハ寄附者中ヨリ總裁之ヲ選任ス  
 第十八條 前二條ニ依リ役員トナリタル者ノ中本山事  
 務員及勘定ハ其職ヲ去リタルトキハ當然其資格ヲ失  
 フモノトス  
 第十九條 理事監事及評議員ノ任期ハ滿四ヶ年トス但  
 シ再任ヲ妨ケス補缺者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間ト  
 ス  
 第二十條 前條ノ役員ハ任期滿了後ト雖モ後任者就職  
 マテハ執務スルモノトス  
 第二十一條 理事又ハ監事ハ其任期中ト雖モ評議員會  
 ノ決議ニヨリ總裁之ヲ解任スルコトヲ得  
 第二十二條 理事長ハ本財團ヲ代表シ一切ノ事務ヲ統  
 括ス理事長事故アルトキハ總裁ハ他ノ理事中ヨリ之  
 カ代理ヲ爲スモノヲ選任ス  
 第二十三條 監事ハ本財團ノ財産及業務執行ノ狀況ヲ  
 監査シ不整ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ總  
 裁及主務官廳ニ報告スルコトヲ要ス  
 第二十四條 理事長ハ事務員ヲ任用シ本財團ノ常務ニ

財 團・本願寺内外布教會財團寄附行爲 眞宗本願寺派本山法要財團設立條例

從事セシムルコトヲ得  
 第二十五條 評議員會ハ定時臨時ノ二トス定時評議員  
 會ハ毎年一月之ヲ召集シ前年度ノ事業執行ノ狀況ヲ  
 報告シ財産目錄及收支決算ノ承認ヲ求メ且ツ當年度  
 ノ豫算ニ付決議ヲ經ルコトヲ要ス  
 臨時評議員會ハ評議員半數以上ノ連署ヲ以テ請求ノ  
 場合其他必要ノ都度之ヲ召集ス  
 第二十六條 評議員會ハ理事長之ヲ召集ス召集ハ開會  
 期日十日以前ニ書面ヲ發送スルニヨリテ之ヲ爲ス但  
 シ緊急ヲ要スルトキハ二日ニ短縮スルコトヲ得  
 第二十七條 評議員會ハ理事長ヲ以テ議長トス  
 第二十八條 評議員會ハ總員ノ三分ノ二以上出席スル  
 ニアラサレハ開會スルコトヲ得但シ召集再回ニ及  
 フモ定員ニ滿タサルトキハ此限ニアラス  
 第二十九條 議事ハ出席者過半數ノ同意ニ依リ之ヲ決  
 ス但シ可否同數ナルトキハ議長ノ決スルトコロニ依  
 ル  
 第三十條 評議員會ノ決議ハ凡テ總裁ノ認可ヲ經テ之  
 ヲ執行ス  
 第六章 附 則  
 財 團・本願寺内外布教會財團寄附行爲 眞宗本願寺派本山法要財團設立條例

第三十一條 本寄附行爲ハ第一條第九條第三十一條第  
 三十二條ノ規定ヲ除ク外評議員三分ノ二以上出席ノ  
 評議員會ニ於テ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ決議シ總  
 裁ノ承認ヲ經テ主務官廳ノ認可ヲ受ケ變更スルコト  
 ヲ得  
 第三十二條 本財團ハ法定ノ解散事由發生スルニ非サ  
 レハ解散スルコトヲ得ス若解散ノ時ハ其資産ノ全部  
 ヲ眞宗本願寺ニ寄附スルモノトス  
 ○眞宗本願寺派本山法要財團設立條例  
 (大正十一年二月 法度第三號)  
 第一條 本山及本廟ニ於ケル永代經其他法要ノ基金蓄  
 積ヲ圖ル爲メ本山法要財團ヲ設立ス  
 第二條 本山法要財團ハ本山講ニ蓄積セル永代經基金  
 ヲ設立基金トシ隨時本山ヨリ回付スル永代經懇志其



財團・眞宗本願寺派本山法要財團設立條例

他ノ寄附金及有志者直接ノ寄贈金ヲ以テ基金ヲ増加ス

但シ基金貳百萬圓ニ達シタル以後ノ寄附金及其果實

處分ハ更ニ評議員會ノ議決ニ據ルモノトス

第三條 本財團ノ基金ハ如何ナル場合ニモ之ヲ費消セ

ス果實ノ一部ヲ以テ財團經常費ニ充テ一部ヲ以テ本

山及本廟ノ永代經法要費及其他ノ法要費ニ充ツ若シ

年度内ニ剩餘アルトキハ基金ニ編入ス

第四條 本財團事務所ハ本山内ニ置ク

第五條 財團成立後ハ民法ノ規定ニ據ル

第六條 財團設立ニ關スル必要ノ規定ハ教示ヲ以テ之

ヲ定ム

附則

財團設立認可マテハ本條積立金ノ利子ヲ本條目的ノ經

費ニ充ツ本法度ハ大正十一年四月一日ヨリ施行ス

眞宗本願寺派本山法要財團設立許可之件

○眞宗本願寺派本山法要財團設立許可之

件 (大正十二年三月 告示第八號)

今般眞宗本願寺派本山法要財團設立ノ件別記之通り文  
部大臣ヨリ許可相成ル

大正十二年三月十七日

執行長 松島善海

文部省京宗一五號

京都市下京區堀川通花屋町下ル

本願寺門前町官有地

眞宗本願寺派本願寺住職事務取扱

大谷尊由

大正十年九月九日附申請財團法人設立ノ件許可ス

大正十二年二月二十六日

文部大臣 鎌田榮吉 吉園

財團法人設立認可申請書

今般別册寄附行爲ニ基キ眞宗本願寺派本山法要財團設  
立致度候間御認可相成度民法第三十四條ニ依リ此段申  
請候也

大正十一年九月九日

京都市下京區堀川通花屋町下ル

本願寺門前町官有地

眞宗本願寺派本願寺住職事務取扱

設立申請人 大谷尊由 吉園

文部大臣 鎌田榮吉 吉園

下ル本願寺門前町官有地眞宗本願寺派本願寺ニ置ク

第四章 資 産

第四條 本財團ハ金貳拾貳萬貳千九百八拾九圓零四錢

ノ資産ヲ以テ成立シ漸次之ヲ増殖シテ總額貳百萬圓

ニ達スルヲ期ス

第五條 資産ヲ分チテ基本財産ト經常財産トノ二トス

第六條 基本財産ハ第四條ニ掲クル資産ヲ以テ之ニ充

ツ將來受クルトコロノ寄附金品及經常財産ノ一部ハ

評議員會ノ決議ヲ經テ何時ニテモ之ヲ基本財産ニ編

入スルコトヲ得豫定資産貳百萬圓ニ達成以後ノ寄附

金及果實ノ處分ハ評議員會ノ議決ニヨルモノトス

第七條 本財團ニ對スル寄附力不動産ナルトキハ寄附

者ノ承諾ヲ以テ之ヲ賣却シ現金ニ換フルモノトス

第八條 基本財産ハ如何ナル事由アルモ之ヲ費消スル

コトヲ得ス

第九條 基本財産ニ屬スル現金ハ之ヲ公債證券ニ換ヘ

確實ナル銀行ニ寄託ス但シ金額五千圓未滿ノ場合ハ

確實ナル銀行ニ預入スルコトヲ得

第十條 經常財産ハ基本財産ヨリ生スル果實及其他ノ

收入ヲ以テ之ニ充ツ

眞宗本願寺派本山法要財團寄附行爲

○眞宗本願寺派本山法要財團寄附行爲

第一章 目 的

第一條 本財團ハ法要基金ヲ蓄積シ本山並ニ大谷本廟

ニ於ケル永代經其他法要ノ經費ヲ支辨スルヲ以テ目

的トス

第二章 名 稱

第二條 本財團ハ眞宗本願寺派本山法要財團ト稱ス

第三章 事 務 所

第三條 本財團ノ事務所ハ京都市下京區堀川通花屋町

財團・眞宗本願寺派本山法要財團設立許可之件



財 團・眞宗本願寺派本山法要財團寄附行爲

第十一條 經常財産ハ其百分ノ九十ヲ永代經及其他ノ法要修費トシテ本願寺派ニ寄贈シ其百分ノ十ヲ本財團ノ經費ニ充ツルモノトス

第十二條 會計年度ハ毎年一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ル

第五章 役員

第十三條 本財團ニ左ノ役員ヲ置ク

總裁 壹名

理事 參名

監事 貳名

評議員 貳拾名

第十四條 總裁ニハ眞宗本願寺派管長ヲ推戴ス

第十五條 理事及監事ハ本財團評議員中ヨリ總裁之ヲ任用ス

理事ノ内壹名ヲ理事長トシ總裁之ヲ選任ス

第十六條 評議員ハ眞宗本願寺派本山事務員及本山勘定又ハ寄附者中ヨリ總裁之ヲ選任ス

第十七條 前二條ニ依リ役員トナリタル者ノ内本山事務員及勘定ハ其職ヲ去リタルトキハ當然其資格ヲ失フモノトス

臨時評議員會ハ評議員半數以上ノ連署ヲ以テ請求ノ場合其他必要ノ都度之ヲ招集ス

第二十五條 評議員會ハ理事長之ヲ招集ス

招集ハ開會期日十日以前ニ書面ヲ發送スルニヨリテ之ヲ爲ス但シ緊急ヲ要スルトキハ二日ニ短縮スルコトヲ得

第二十六條 評議員會ハ理事長ヲ以テ議長トス

第二十七條 評議員會ハ總員ノ三分ノ二以上出席スルニアラサレハ開會スルコトヲ得但シ招集再回ニ及フモ定員ニ滿タサルトキハ此限ニアラス

第二十八條 議事ハ出席者過半數ノ同意ニ依リ之ヲ決ス但シ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二十九條 評議員會ノ決議ハ凡テ總裁ノ認可ヲ經テ之ヲ執行ス

第六章 附 則

第三十條 本寄附行爲ハ第一條第八條第三十條第三十一條ノ規定ヲ除ク外評議員三分ノ二以上出席ノ評議員會ニ於テ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ決議シ總裁ノ承認ヲ經テ主務官廳ノ認可ヲ受ケ變更スルコトヲ得

第三十一條 本財團ハ法定ノ解散事由發生スルニ非サ

財 團・眞宗本願寺派本山法要財團寄附行爲

第十八條 理事監事及評議員ノ任期ハ滿四ケ年トス但再任ヲ妨ケス

第十九條 前條ノ役員ハ任期滿了後ト雖モ後任者就職マテハ職務スルモノトス

第二十條 理事又ハ監事ハ其任期中ト雖モ評議員會ノ決議ニヨリ總裁之ヲ解任スルコトヲ得

第二十一條 理事長ハ本財團ヲ代表シ一切ノ事務ヲ統括ス

理事長事故アルトキハ總裁ハ他ノ理事中ヨリ之カ代理ヲ爲スモノヲ選任ス

第二十二條 監事ハ本財團ノ財産及業務執行ノ狀況ヲ監査シ不整ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ總裁及主務官廳ニ報告スルコトヲ要ス

第二十三條 理事長ハ事務員ヲ任用シ本財團ノ常務ニ從事セシムルコトヲ得

第二十四條 評議員會ハ定時臨時ノ二トス定時評議員會ハ毎年一月之ヲ招集シ前年度ノ事業執務ノ狀況ヲ報告シ財産目錄及收支決算ノ承認ヲ求メ且ツ當年度ノ豫算ニ付決議ヲ經ルコトヲ要ス

○龍谷大學財團設立條例

(大正十一年六月 法度第七號)

改正 大正二二、五

レハ解散スルコトヲ得ス若解散ノ時ハ其資産ノ全部ヲ眞宗本願寺派本願寺ニ寄附スルモノトス

第一條 龍谷大學ノ經營及維持ヲ圖ル爲メ龍谷大學財團ヲ設立ス

第二條 本財團事務所ハ本山ニ置ク

第三條 本財團ノ資産ハ本山下附金並ニ一般有志者ノ寄附金總額壹百萬圓以上ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 本財團ノ資産ヨリ生スル果實ハ財團ノ經常費及龍谷大學ノ經費ニ使用ス

第五條 本財團ノ基金ハ如何ナル場合ト雖モ費消スルコトヲ得ス

第六條 基金ハ國庫債券若クハ其他ノ公債ニ替ヘ又ハ龍谷大學財團設立條例



財團・龍谷大學財團設立條例 龍谷大學財團設立許可之件

主務官廳ノ認ムル確實ナル方法ニ依リ保管スルモノトス

第七條 本財團ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁 一名 管長ヲ推薦ス

理事長 一名 執行長ヲ以テ之ニ充ツ

理事 若干名 (執行及龍谷大學總長ヲ以テ之ニ充ツ)

監事 若干名 寄附者中ヨリ選任ス

評議員 六十三名 集會會衆ヲ以テ之ニ充ツ

第八條 本財團設立後ハ民法ノ規定ニ依ル

第九條 財團設立ニ關スル必要ノ規定ハ教示ヲ以テ之ヲ定ム

附則

一、從來蓄積セル資金ハ龍谷大學財團ニ寄附ス

二、龍谷大學ノ經費中本財團ノ資産ヨリ生スル果實 授業料其他ノ收入ヲ以テ支辨シ能ハサル金額ハ 毎年本山ヨリ下附ス

本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○龍谷大學財團設立許可之件

(大正十一年六月 告示第四號)

今般龍谷大學財團設立ノ件別記ノ通文部大臣ヨリ許可相成ル

(別記)

文部省京專第二四號

財團法人龍谷大學財團設立者

眞宗本願寺派本願寺住職事務取扱

大谷 尊 由

大正九年九月二十一日付申請財團法人龍谷大學財團設立ノ件民法第三十四條ニ依リ許可ス

大正十一年五月二十日

文部大臣 中橋徳五郎 印

○龍谷大學財團寄附行為

第一章 目的

第一條 本財團ハ龍谷大學ノ經營及維持ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 前條ノ外本財團ハ中等教育又ハ專門教育ヲ行フ學校ヲ設營スルコトヲ得

第三條 本財團ノ經營スル學校ハ淨土眞宗ノ精神ニ依リ教育ヲ施スモノトス

本財團ノ經營スル學校ニ關スル規定ハ眞宗本願寺派ノ學校ニ關スル法度ニ依ル

第二章 名稱及事務所

第四條 本財團ハ龍谷大學財團ト稱ス

第五條 本財團事務所ハ京都市下京區堀川通花屋町下ル本願寺門前町官有地本願寺内ニ置ク

第三章 資産

第六條 本財團ニ屬スル資産ヲ分チテ基本財産及通常財産ノ二種トス

第七條 財團ノ基本財産ハ左ノ金員ヨリ成リ如何ナル場合ト雖モ費消スル事ヲ得ス

財團・龍谷大學財團寄附行為

一、設立者タル眞宗本願寺派本願寺ヨリ寄附シタル

金壹百萬圓

二、第九條第二項ニ依ル通常財産ヨリ處分編入セラ

ルヘキ金員

三、第十條ニ依ル寄附金員

第八條 本財團ノ通常財産ハ左ノ金員及物件ヨリ成リ

規定ニ依リ處分スルコトヲ得ルモノトス

一、基本財産ヨリ生スル果實

二、第十條ニ依ル寄附物件

三、前年度剩餘金

四、雜收入

第九條 基本財産ハ國債證券若クハ其他ノ公債ニ替

又ハ主務官廳ノ認ムル確實ナル方法ニ依リ供託ス

ルモノトス

通常財産ハ評議員會ノ議決ヲ經テ之ヲ基本財産ニ處

分編入スルコトヲ得

第十條 本財團ハ設立ノ趣旨ヲ賛成シテ寄附ヲナス者

アルトキハ之ヲ受領ス

第十一條 基本財産ヨリ生スル果實ハ百分ノ三ヲ本財

團ノ經常費ニ充テ百分ノ九十七ヲ龍谷大學ノ經費ニ



財 團・龍谷大學財團寄附行爲

充ツ

第十二條 本財團ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第四章 職 員

第十三條 本財團ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁 一名

顧問 若干名

理事 四名以上八名以内

評議員 六十三名以内

監事 五 名

理事ノ内一名ヲ理事長トス但理事長ハ眞宗本願寺派本願寺執行長之ニ當ルモノトス

第十四條 總裁ハ眞宗本願寺派本願寺管長ヲ推戴ス

第十五條 顧問ハ學殖徳望アリ本財團ノ目的ヲ贊助スル者ノ中ヨリ總裁之ヲ囑託ス

第十六條 顧問ハ總裁ノ諮詢ニ應シ本財團ノ事業ヲ援助ス

第十七條 理事ハ眞宗本願寺派本願寺執行ノ中ヨリ總裁ノ選ヒタル者五名以内及龍谷大學長ヲ以テ之ニ充ツ

第十八條 評議員ハ眞宗本願寺派本願寺集會ノ會衆ヲ以テ之ニ充ツ

第十九條 監事ハ寄附者中ヨリ理事長ノ申請ニヨリ總裁之ヲ任免ス

監事ノ任期ハ四箇年トス但補缺者ノ任期ハ前任者ノ殘期トス

第二十條 第十七條及第十八條ニ依リ職員トナリタル者ハ其職務ヲ去リタルトキハ當然其職ヲ失フモノトス

第二十一條 本財團職員ハ總テ名譽職トス

第二十二條 理事、評議員、監事更迭ノ場合ハ後任者ヘ引繼テ了スル迄執務スルモノトス

但總裁ノ特命アル時ハ此限ニアラス

第二十三條 評議員會ハ理事、評議員、監事ヲ以テ組織ス

第二十四條 評議員會ハ定時並ニ臨時トシ定時ハ毎年一月若クハ二月之ヲ召集シ前年度決算並ニ翌年度豫算其他理事長ヨリ提案スル必要ナル事項ヲ議スルモノトス  
臨時評議員會ハ定時評議員會以外臨時ノ必要ヲ生シ

財 團・龍谷大學財團寄附行爲

タル場合之ヲ召集スルモノトス

第二十五條 評議員會ハ理事長之ヲ召集ス理事長事故アル時ハ理事合議ノ上之ヲ召集スルコトヲ得

第二十六條 評議員會ハ總員ノ半數以上出席スルニ非レハ開會スルコトヲ得ス若シ之ニ充タサレハ更ニ之ヲ召集スヘシ

但再召集ト雖モ總員ノ三分ノ一以上出席スルニ非レハ開會スルコトヲ得ス

第二十七條 理事長ハ評議員會ノ議長トナリ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ決シ若シ同數ナルトキハ議長ノ定ムル所ニヨル

第二十八條 理事長ハ本財團ヲ代表シテ其事務ヲ掌理シ理事ハ理事長ヲ補佐シ理事事故アルトキハ合議ノ上理事長ノ職務ヲ處理ス

第二十九條 評議員ハ本財團ノ資産及業務ノ狀況ヲ監査スルコトヲ得

第三十條 監事ハ本財團ノ資産及事務ノ狀況ヲ監査スルモノトス

第三十一條 本寄附行爲ニ規定セサル事項ハ凡テ民法ノ規定ニ依ル

第三十二條 本財團ハ法定ノ解散事由發生スルニ非レハ解散スルコトヲ得ス

第三十三條 本財團解散スルニ至リタル時ハ評議員會ノ議決ヲ經總裁ノ承認ヲ得テ其資産ノ全部ヲ眞宗本願寺派本願寺ニ寄附ス

第五章 附 則

第三十四條 本寄附行爲ハ評議員會ノ議決並ニ總裁ノ承認ヲ經主務官廳ノ認可ヲ得ルニ非レハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第三十五條 前例ノ議決ニ際シテハ第一條、第七條、第九條及本條ノ規定ヲ變更スヘカラス

第三十六條 第三十四條ノ議決ハ評議員會員三分ノ二以上出席シ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非レハ議決スヘカラス



財 團・京都女子高等專門學校維持財團設立許可之件 京都女子高等專門學校維持財團寄附行為

○京都女子高等專門學校維持財團設立許可之件

今般京都女子高等專門學校維持財團設立ノ件別記之通 文部大臣ヨリ許可相成ル

(別記)

文部省京專第一二八號

財團法人京都女子高等專門學校維持財團設立者

武田 澤 心

大正八年十二月二日付申請財團法人京都女子高等專門學校維持財團設立ノ件民法第三十四條ニ依リ許可ス

大正九年三月二十九日

文部大臣 中橋 德五郎 印

財團法人設立認可申請書

京都女子高等專門學校維持發展ヲ圖ル目的ヲ以テ京都女子高等專門學校維持財團ヲ設立致度候條御認可相成度別冊寄附行為相添ヘ民法第三十四條ニ依リ此段申請候也

大正八年十二月二日

京都市下京區堀川通花屋町下ル本願寺門前町

眞宗本願寺派本願寺住職事務取扱

武田 澤 心

文部大臣 中橋 德五郎 印

○京都女子高等專門學校維持財團寄附行為

第一章 目的

第一條 本財團ハ京都女子高等專門學校ノ經營及ヒ維持ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二章 名稱及事務所

第二條 本財團ハ京都女子高等專門學校維持財團ト稱ス

第三條 事務所ハ京都市下京區眞宗本願寺内ニ置ク

第三章 資 産

第四條 本財團ハ眞宗本願寺派本願寺ヨリ寄附セラレタル金四萬圓ヲ基本財産トス

第五條 本財團ノ目的ヲ贊助シテ寄附ヲ受ケタル財産ハ本財團ノ基本財産ニ編入スルモノトス

第六條 本財團ノ基本財産ハ如何ナル場合ト雖モ使用スルコトヲ得ス

第七條 基本財産ハ國庫債券若シクハ市公債ニ替ヘ日本銀行ヘ供託スルモノトス

第八條 基本財産ヨリ生スル果實ハ評議員會ノ議決ヲ經テ果實ノ百分ノ五以内ヲ財團經常費ニ充テ百分ノ九十五ハ京都女子高等專門學校ヘ交付ス若シ經常費ニ剩餘ヲ生シタルトキハ之レヲ基本財産ニ編入スルモノトス

第九條 會計年度ハ其年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ了ル

第四章 職 員

第十條 本財團ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁 一名

評議員 十名

財 團・京都女子高等專門學校維持財團寄附行為

理事 三名

監事 二名

理事ハ互選ニテ内一名ヲ理事長トス

第十一條 總裁ハ眞宗本願寺派管長ヲ推戴ス

第十二條 評議員ハ設立當時ニ於テハ設立者ノ申請ニヨリ以後ハ理事長ノ申請ニ依リ左ノ資格者中ヨリ適當ト認メタル時ハ總裁之ヲ任免ス

一、本山役員及京都女子高等專門學校教職員中ヨリ二分ノ一

二、前項ノ資格ヲ有セサル者ニシテ基本財産寄附者中ヨリ二分ノ一

第十三條 評議員ノ任期ハ四ケ年トス

但シ職務ノ資格ニ依リ評議員トナリタル者ハ其職務ヲ去リタル時ハ評議員ノ資格ヲ失フ

第十四條 補缺者ノ任期ハ前任者ノ殘期トス

第十五條 理事監事ハ評議員之ヲ互選ス

第十六條 理事監事評議員更迭ノ場合ハ後任者ヘ引繼ヲ了スル迄職務スルモノトス

但シ總裁ノ特命アル時ハ此ノ限ニアラス

第十七條 評議員會ハ理事監事評議員ヲ以テ組織ス



財團・京都女子高等專門學校維持財團寄附行爲

- 第十八條 評議員會ハ定時並ニ臨時トシ定時ハ毎年一月之ヲ召集シ前年度ノ決算並ニ翌年度ノ豫算其他必要ナル事項ヲ議スルモノトス
- 第十九條 臨時會ハ定時評議員會以外ニ臨時必要ヲ生シタル場合之ヲ召集スルモノトス
- 第二十條 評議員會ノ召集ハ開會當日ヨリ一週間以前ニ到着スル様通知スルモノトス
- 第二十一條 評議員會ハ理事長之ヲ召集ス理事長不在ノ時ハ理事貳名協議ノ上召集スルコトヲ得
- 第二十二條 評議員會ハ總員ノ三分ノ二以上出席スルニアラサレハ開會スルコトヲ得ス若シ之ニ充タサレハ更ニ之ヲ召集スヘシ
- 但シ再召集ト雖モ總員ノ半数以上出席スルニ非レハ開會スルコトヲ得ス
- 第二十三條 理事長ハ評議員會ノ議長トナリ議事ハ出席者ノ過半数ヲ以テ決シ若シ同數ナル時ハ議長ノ定ムル處ニ依ル
- 第二十四條 評議員ハ本財團ノ資産及業務ノ狀況ヲ監査スルコトヲ得
- 第二十五條 理事長ハ本財團ヲ代表シテ其事務ヲ掌理

シ理事ハ理事長ヲ補佐シ理事長缺員ノ時ハ理事合議ノ上理事長ノ職務ヲ處理ス

- 第二十六條 監事ハ本財團ノ資産及業務ノ狀況ヲ監査スルモノトス
  - 第二十七條 本寄附行爲ニ記載ナキ事項ハ凡テ民法ノ規定ニ依ル
  - 第二十八條 本財團ハ法定ノ解散事由發生スルニアラサレハ解散スルコトヲ得ス
  - 第二十九條 本財團解散スルニ至リタル時ハ豫メ評議員會ノ決議ヲ經主務官廳ノ許可ヲ經テ其資産ノ全部ヲ眞宗本願寺派本願寺ニ寄附ス
- 第五章 附 則
- 第三十條 本寄附行爲ハ評議員會ノ議決ヲ經タル後主務官廳ノ許可ヲ得ルニ非レハ之ヲ變更スルコトヲ得ス
  - 第三十一條 前條ノ議決ニ際シテハ第一條及第六條ノ規定ヲ變更スヘカラス
  - 第三十二條 第二十九條ノ議決ハ評議員三分ノ二以上出席シ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニアラサレハ議決スヘカラス

○本願寺派本願寺愛護財團設立條例

(大正十三年十月) 改正 大正一五、三  
法度第六號

- 第一條 大正十二年度關東震災臨時救災ノ施設事業繼續ノ爲メ震災記念トシテ本願寺派本願寺愛護財團ヲ設立ス
  - 第二條 本財團ハ兒童愛護會ノ指定寄附金及其他ノ寄附金ヲ受ケテ基金トス
  - 第三條 本財團ノ基金ハ如何ナル場合ト雖モ之ヲ費消セス其果實ヲ以テ事業ノ經費並ニ本財團ノ經費ニ充ツ
  - 第四條 本財團ノ事務所ヲ築地別院内ニ置ク
  - 第五條 本財團ノ寄附行爲ハ民法及本派財團準則ニ依ル
  - 第六條 本財團設立ニ關スル必要ノ規定ハ教ホヲ以テ之ヲ定ム
- 附 則
- 一、本財團ノ經常費ハ資産ヨリ生セル果實及其他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ
  - 二、本法度ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

財團・本願寺派本願寺愛護財團設立條例 本願寺派本願寺愛護財團設立許可之件

○本願寺派本願寺愛護財團設立許可之件

昭和四、二

今般本願寺派本願寺愛護財團設立ノ件別記之通内務大臣ヨリ許可相成ル

收社第九四六號

眞宗本願寺派本願寺愛護財團

設立申請者 大谷 尊 由

大正十五年十二月十七日附申請財團法人設立ノ件許可ス

昭和二年十二月二十一日

内務大臣 鈴木喜三郎印

財團法人設立認可申請書

今般別冊寄附行爲ニ基キ眞宗本願寺派本願寺愛護財團設立致度候間御認可相成度民法第三十四條ニ依リ此段申請候也

大正十五年十二月十七日

京都市下京區堀川通花屋町下ル

本願寺門前町官有地



財團・眞宗本願寺派本願寺愛護財團寄附行爲

眞宗本願寺派本山本願寺住職事務取扱  
設立申請人 大谷 尊 由圃  
内務大臣 濱 口 雄 幸殿

○眞宗本願寺派本願寺愛護財團寄附行爲

改正 昭和四、二

第一章 目的

第一條 本財團ハ東京府ニ於ケル本願寺派ニ關係アル各種社會事業經營ヲ補助スルヲ以テ目的トス

第二章 名稱

第二條 本財團ハ眞宗本願寺派本願寺愛護財團ト稱ス

第三章 事務所

第三條 本財團ノ事務所ハ東京市京橋區築地三丁目日本願寺築地別院ニ置ケ

第四章 資産

第四條 本財團設立當初ノ資産ハ別紙目錄ニ掲ケル金

六萬九千壹百貳拾四圓拾五錢ヲ以テ成立シ漸次之ヲ増殖シテ總額貳百萬圓ニ達セシムルモノトス

第五條 資産ヲ分チテ基本財産ト經常財産トノ二トス

第六條 基本財産ハ第四條ニ掲ケル資産ヲ以テ之ニ充ツ將來受クルトコロノ寄附金品及經常財産ノ一部ハ

評議員會ノ決議ヲ經テ何時ニテモ之ヲ基本財産ニ編入スルコトヲ得

第七條 本財團ニ對スル寄附力不動産ナルトキハ寄附者ノ承諾ヲ得テ評議員會ニ諮リ之ヲ賣却シ現金ニ換フルコトヲ得

第八條 基本財産ハ如何ナル事由アルモ之ヲ費消スルコトヲ得ス

第九條 基本財産ニ屬スル現金ハ之ヲ公債證券又ハ確實ナル債券ニ換ヘ確實ナル銀行又ハ信託會社ニ寄託シ若クハ現金ニテ之ヲ信託會社ニ信託ス但シ金額五千圓未滿ノ場合ハ確實ナル銀行ニ預入スルコトヲ得

第十條 經常財産ハ基本財産ヨリ生スル果實及其他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第十一條 經常財産ハ其百分ノ九十ヲ第一條ノ目的ノ爲メニ支出シ其百分ノ十ヲ本財團ノ經費ニ充ツルモ

ノトス

第十二條 本財團ノ經費豫算ハ毎年會計年度開始前ニ於テ評議員會ノ決議ヲ經テ理事長之ヲ定ム

第十三條 會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第五章 役員

第十四條 本財團ニ左ノ役員ヲ置ケ

總裁 一名

理事 三名

監事 二名

評議員 二十名

第十五條 總裁ニハ眞宗本願寺派管長ヲ推戴ス

第十六條 理事及監事ハ本財團評議員中ヨリ總裁之ヲ任用ス

理事及監事ハ評議員ヲ兼ヌルモノトス

理事ノ内一名ヲ理事長トシ總裁之ヲ選任ス

第十七條 評議員ハ眞宗本願寺派執行長、執行、東京出張所長、東京築地別院輪番、築地別院勘定及社會事業ニ造詣アル本派僧侶其他本財團ニ多額ノ寄附ヲ爲シタル者ノ中ヨリ總裁之ヲ選任ス

財團・眞宗本願寺派本願寺愛護財團寄附行爲

第十八條 前二條ニ依リ役員トナリタル者ノ内執行長執行及東京出張所長輪番勘定ハ其職ヲ去リタルトキハ當然其資格ヲ失フモノトス

第十九條 理事監事及評議員ノ任期ハ滿四ヶ年トス但再任ヲ妨ケス

補缺者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第二十條 前條ノ役員ハ任期滿了後ト雖モ後任者就職マテハ職務スルモノトス

第二十一條 理事又ハ監事ハ其任期中ト雖モ評議員會ノ決議ニヨリ總裁之ヲ解任スルコトヲ得

第二十二條 理事長ハ本財團ヲ代表シ一切ノ事務ヲ統括ス理事長事故アルトキハ總裁ハ他ノ理事中ヨリ之カ代理ヲ爲スモノヲ選任ス

第二十三條 監事ハ本財團ノ財産及業務執行ノ狀況ヲ監査シ不整ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ總裁及主務官廳ニ報告スルコトヲ要ス

第二十四條 理事長ハ事務員ヲ任用シ本財團ノ常務ニ從事セシムルコトヲ得

第二十五條 評議員會ハ定時臨時ノ二トス定時評議員會ハ毎年二月一日ヨリ三月末日迄ノ間ニ之ヲ招集シ



財團・眞宗本願寺派本願寺愛護財團寄附行爲

宗學研究財團設立條例

前年度ノ事業執務ノ狀況ヲ報告シ財産目錄及收支決算ノ承認ヲ求メ且ツ次年度ノ豫算ニ付決議ヲ經ルコトヲ要ス

評議員會ニ於テ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ決議シ總裁ノ承認ヲ經テ主務官廳ノ認可ヲ受ケ變更スルコトヲ得

臨時評議員會ハ監事ノ請求又ハ評議員半數以上ノ連署ヲ以テ請求ノ場合其他理事長ニ於テ必要ト認めタル場合之ヲ召集ス

第三十二條 本財團ハ法定ノ解散事由發生スルニ非レハ解散スルコトヲ得ス若シ解散ノ時ハ其資産ノ全部ヲ眞宗本願寺派本願寺社會事業基金トシテ寄附スルモノトス

第二十六條 評議員會ハ理事長之ヲ召集ス

召集ハ開會期日十日以前ニ書面ヲ發送スルニヨリテ之ヲ爲ス但シ緊急ヲ要スルトキハ二日ニ短縮スルコトヲ得

第二十七條 評議員會ハ理事長ヲ以テ議長トス

〇宗學研究財團設立條例 (大正十五年三月 法度第二二號)

第二十八條 評議員會ハ總員ノ二分ノ一以上出席スルニアラサレハ開會スルコトヲ得ス但シ召集再回ニ及フモ定員ニ滿タサルトキハ此限リニアラス

第一條 宗學院ノ維持經營並ニ宗學研究獎勵ノ資金ヲ蓄積センカ爲メ宗學研究財團ヲ設立ス

第二十九條 議事ハ出席者過半數ノ同意ニ依リ之ヲ決ス但シ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二條 本財團ハ本山寄附金並ニ其他ノ寄附金ヲ以テ基金トス

第三十條 評議員會ノ決議ハ凡テ總裁ノ認可ヲ經テ之ヲ決行ス

第三條 本財團ノ基金ハ如何ナル場合ト雖モ之ヲ費消セス其果實ヲ以テ事業資金並ニ本財團ノ經費ニ充ツ

第六章 附則

第四條 本財團ノ事務所ヲ本山上ニ置ク

第三十一條 本寄附行爲ハ評議員三分ノ二以上出席ノ

第五條 本財團ノ寄附行爲ハ民法及本派財團準則ニ依

〇眞宗學研究財團設立許可之件

(昭和二年三月 告示第四號)

今般眞宗學研究財團設立ノ件別記之通文部大臣ヨリ許可相成ル

京專一〇八號 眞宗學研究財團設立者 眞宗本願寺派本山本願寺住職事務取扱 大谷尊由 大正十五年七月五日申請眞宗學研究財團設立ノ件 民法第三十四條ニ依リ許可ス 昭和二年二月十二日 文部大臣 岡田良平 印

財團・眞宗學研究財團設立許可之件 眞宗學研究財團寄附行爲

財團法人設立認可申請書

今般別册寄附行爲ニ基キ眞宗學研究財團設立致度候間御認可相成度民法第三十四條ニ依リ此段申請候也 大正十五年七月五日

京都市下京區堀川通花屋町下ル本願寺 門前町官有地 眞宗本願寺派本山本願寺住職事務取扱 設立申請人 大谷尊由 印 文部大臣 岡田良平 殿

〇眞宗學研究財團寄附行爲

第一章 總則

第一條 本財團ハ眞宗本願寺派ノ宗學ヲ振興センカ爲メ本願寺派宗學院ノ維持一般宗學研究者ノ教養保護及ヒ宗學ノ獎勵ヲ以テ目的トス 第二條 本財團ハ眞宗學研究財團ト稱ス



財 團・眞宗學研究財團寄附行爲

第三條 本財團ノ事務所ヲ京都市下京區堀川通花屋町下ル本願寺門前町官有地眞宗本願寺派本山本願寺ニ置ク

第二章 資 産

第四條 本財團ハ左ノ資産ヲ以テ成立ス

金拾萬圓也 本願寺派本願寺寄附

第五條 本財團ハ本財團ノ趣旨ヲ賛成スル者ヨリ金品ノ寄附ヲ受領スルコトヲ得

寄附者ハ寄附ト同時ニ寄附行爲ニ反セサル範圍内ニ於テ寄附金品ノ使途又ハ其ノ管理方法等ヲ指定スルコトヲ得

第六條 資産ヲ分チテ基本財産及ヒ常用財産ノ二種トス

第七條 基本財産ハ第四條ニ掲クル資産及ヒ指定寄附金品ヲ以テ之ニ充ツ

通常寄附金品及ヒ常用財産ノ一部ハ評議員會ノ決議ヲ經テ何時ニテモ之ヲ基本財産ニ編入スルコトヲ得

第八條 基本財産ニ屬スル現金ハ之ヲ以テ國債地方債又ハ確實ナル有價證券ヲ買入レ若クハ之ヲ確實ナル信託會社又ハ銀行ニ預入レ利殖ヲ圖ルモノトス

第九條 基本財産ニ屬スル土地物品ヲ有利ニ處分スルニハ評議員會ノ決議ヲ經ルモノトス

第十條 前二條ノ規定ハ管理方法ニ付キテ指定アル寄附金品ニ之ヲ適用セス

第十一條 基本財産ハ如何ナル場合ト雖モ之ヲ費消スルコトヲ得ス

第十二條 常用財産ハ左記各號ノモノヲ以テ之ニ充ツ

- 一、基本財産ヨリ生スル果實
- 一、通常寄附金品
- 一、雜收入

第十三條 常用財産ヲ以テ本財團ノ獎學費及ヒ事務費ニ充ツルモノトス但シ基本財産ヨリ生スル果實ノ百分ノ十以内ヲ事務費ニ充ツ

第十四條 本財團ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第三章 機 關

第十五條 本財團ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一 總裁 一名
- 二 理事 五名 (内一名ヲ理事長トシ二名ヲ財務理事トス)
- 三 評議員 十名

第十六條 總裁ニハ本願寺派管長ヲ推戴ス

第十七條 評議員ハ本願寺派勸學司教ノ學階ヲ有スルモノ及ヒ特ニ宗學獎勵ニ熱心ナル僧侶並ニ資金寄附者中ヨリ總裁之ヲ選任ス但シ資金寄附者中ヨリ選任スル評議員ノ數ハ定員ノ半數ヲ下ルヲ得ス

第十八條 財務理事以外ノ理事ハ第十七條ノ資格者中ヨリ評議員會ノ推薦ニヨリ總裁之ヲ選任ス

第十九條 財務理事ハ資金寄附者中ヨリ評議員會ノ推薦ニヨリ總裁之ヲ選任ス

第二十條 理事及ヒ評議員ノ任期ハ各三ケ年トシ第三會計年度末ヲ以テ終ル

第二十一條 理事又ハ評議員ニ缺員ヲ生シタルトキハ補缺選任ス若シ評議員會期ニ非サルトキハ理事會ノ推薦ニ由ル補缺者ノ任期ハ前任者ノ殘期間トス

第二十二條 理事任期滿了スルモ後任者ノ就職スル迄ハ仍其ノ職務ヲ行フモノトス

第二十三條 理事カ著シク其ノ職務ヲ怠リ又ハ法律寄附行爲ノ趣旨ニ違反スル行爲アルトキハ評議員會ノ決議ニヨリ總裁ハ之ヲ解任スルコトヲ得但シ緊急ノ

財 團・眞宗學研究財團寄附行爲

場合ハ總裁之ヲ決行シ次期評議員會ニ報告ス

第二十四條 理事長ハ本財團ヲ代表ス理事長支障アルトキハ年長ノ理事之ヲ代理ス

第二十五條 本財團ノ事務ハ理事ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二十六條 本財團ノ基本財産ハ財務理事之ヲ管理シ其ノ責ニ任ス

第二十七條 評議員會ハ定時及ヒ臨時ノ二トス

第二十八條 定時評議員會ハ毎年四月之ヲ招集シ事務執行ノ狀況ヲ報告シ毎年度ノ收支決算報告財産目錄及ヒ當年度ノ收支豫算ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

臨時評議員會ハ必要ノ都度之ヲ招集ス

第二十九條 評議員會ハ理事長之ヲ招集ス

第三十條 半數以上ノ評議員カ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求シタルトキハ理事長ハ之ヲ招集スルヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ理事長招集セサルトキハ招集ヲ請求シタル者自ラ招集スルコトヲ得

第三十一條 理事長ヲ以テ評議員會ノ議長トス

第三十二條 評議員會ハ評議員ノ半數以上出席スルニ



財 團・眞宗學研究財團寄附行爲 北米開教財團設立條例

非サレハ開クコトヲ得ス但シ招集兩回ニ及フトキハ此限ニ非ス

第三十三條 評議員會ノ決議ハ寄附行爲ニ別段ノ定メアル場合ヲ除キ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十四條 理事及ヒ評議員ハ總テ無報酬トス

第三十五條 理事ハ顧問若干名ヲ囑託スルコトヲ得

第三十六條 理事ハ事務員ヲ任用スルコトヲ得

第四章 附 則

第三十七條 本寄附行爲ハ第一條第八條乃至第十一條

第十六條及本條ノ規定ヲ除ク外評議員會ニ於テ出席

者四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ決議シ主務官廳ノ認可

ヲ受クルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

第三十八條 本財團ハ法定ノ解散事由發生スルニ非サ

レハ解散スルコトヲ得ス若シ解散ノ時ハ其ノ資産ノ

全部ヲ眞宗本願寺派本願寺ニ寄附スルモノトス

第三十九條 本財團成立初期ノ理事ハ第十八條第十九

條ニ依ラス總裁直ニ之ヲ選任ス

○北米開教財團設立條例 (大正十五年三月 法度第三號)

第一條 北米開教二十五周年記念事業トシテ開教ノ基礎ヲ鞏固ニシ教線ノ擴張ヲ計ランカ爲メ北米開教財團ヲ設立ス

第二條 本財團ハ本山補助金及門徒並ニ篤志者ノ寄附金ヲ以テ基金トス

第三條 本財團ノ基金ハ如何ナル場合ト雖モ之ヲ費消セス其果實ヲ以テ開教費並ニ本財團ノ經費ニ充ツ

第四條 本財團ノ事務所ヲ桑港北米開教々務所内ニ置ク

第五條 本財團ハ管長ヲ名譽團長、北米開教總長ヲ團長トシ北米駐在布教使ノ全部及各地佛教會信徒ノ代表者ヲ以テ團員トス

第六條 本財團ノ寄附行爲ハ本派財團準則ヲ參照シ加州公法ニ依ル

第七條 本財團設立ニ關スル必要ノ規定ハ教示ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

一、本財團成立ノ上ハ本山ハ内外布教會財團基金拾

財 團・北米開教財團設立條例

萬圓ヨリ生スル果實ノ範圍内ニ於テ年々本財團ニ補助シ經常費ニ支出セル殘餘金ヲ基金ニ編入スルモノトス

一、本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス



附

錄

總代會衆選舉規程	四〇一
總代會衆選舉規程施行規則	四〇八
執行所執務時間表	四二四
日曜祭日以外ノ定例休暇表	四二四



○總代会衆選舉規程

(明治三十六年十一月 法 度 第 五 號)

改正 明治三九、一 大正八、一〇 大正二、五  
昭和大正一三、九 昭和二、九 昭和三、四、五  
昭和六、五

第一章 總 則

第一條 總代会衆ハ集會規則第三條ノ規定ニ依リ各選區ニ於テ選舉ス

條二條 總選舉ハ總代会衆任期終了ノ年ノ前年ニ於テ選舉人名簿ノ確定後又ハ集會解散セラレタルトキ各選區同日ニ之ヲ行フ其ノ期日ハ教示ヲ以テ之ヲ定メ四十日以前ニ發布ス

第三條 總代会衆ニ缺員アルトキハ補缺選舉ヲ行フ但シ選舉後一ヶ年以内ニ缺員ヲ生シタルトキハ法定數以上ノ得票アル次點者ヲ以テ補缺ス

當選者其ノ選區ノ會衆定員ニ及ハサルトキハ其ノ不足數ニツキ三ヶ月以内ニ更ニ選舉ヲ行フ

第四條 選舉ノ全部成立セサルトキ又ハ本規程ニ特定アル場合ニ於テハ更ニ選舉ヲ行フ

一組若ハ數組ノ選舉成立セサルトキハ其ノ不成立ノ部分ニ於テ更ニ選舉ヲ行フ

第五條 補缺選舉及再選舉ノ期日ハ執行之ヲ定メ三十

附 錄・總代会衆選舉規程

日以前ニ達示ス

前條第二項ノ場合ハ第三十九條ノ規定ヲ準用ス

第六條 選舉長ハ本山之ヲ特命シ其ノ選區内選舉ニ關スル事務ヲ統理セシム

第七條 選舉ハ每組ニ於テ投票ニ依リ之ヲ行フ投票ハ一人一票ニ限ル

第八條 組長ハ投票ヲ管理シ投票ニ關スル事務ヲ擔任ス

第九條 選舉長又ハ組長ニシテ規定ニ背キルカ爲メ選舉事務ノ進行セサルトキハ本山ハ臨時選舉長又ハ組長ノ事務取扱者ヲ置キ期日ヲ定メ更ニ其ノ事務ヲ進行セシムルコトアルヘシ

第十條 選舉事務費ハ寺數ニ依リ選區内ニ於ケル組内費ヨリ支辨ス

第二章 選舉人及被選人

第十一條 選舉人名簿調製期日以前ヨリ其ノ選區内ニ於テ正、副、前住職及成年以上ノ教師、進教師タル者ハ選舉人タルノ資格ヲ有ス

第十二條 前條ノ有資格者ニシテ兼務寺所屬組ニ於テ投票セントスル者ハ本山ニ届出ノ上選舉資格ヲ其ノ組ニ移動スルコトヲ得



附 錄・總代會衆選舉規程

前項ノ場合ニハ其ノ兼務寺タルモノ寺法第二十八條ニ戻ラサルモノニ限ル

第十三條 年齡滿二十五歲以上ニシテ法滿滿五年以上ノ教師タル者ハ被選人タルノ資格ヲ有ス

第十四條 監正局事務員又ハ選區内ノ事務所事務員及正副組長ハ選舉ノ期日ノ三ヶ月以前ニ其ノ職ヲ辭スルニアラサレハ被選人タルコトヲ得ス

集會解散ノ場合ハ前項ノ期間ヲ一ヶ月トス

第十五條 左ノ一ニ當ルモノハ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

一、寺法第二十八條ノ趣意ニ戻ル末寺ニ屬スル者但シ特別ノ事情ニ依リ義務金ノ減免ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

二、輕懲戒以上處分中ノ者又ハ處分ヲ受ケ決行猶豫中ノ者及處分解除後輕懲戒ハ滿一年、重懲戒ハ滿二年ヲ經過セサル者

三、總代會衆選舉ニ關スル輕懲戒以上ノ處分解除後滿四年ヲ經過セサル者

第十六條 各組ノ選舉人名簿ハ毎年本山ニ於テ正副二本ヲ調製シ縱覽開始ノ日ヨリ七日以前ニ副本ヲ組長ニ送付スヘシ

選舉人名簿ノ調製、縱覽、確定ノ期日ハ達示ヲ以テ

之ヲ定ム

第十七條 組長ハ選舉人名簿ヲ縱覽開始ノ日ヨリ二十日間組長事務所ニ於テ其ノ組内各寺正、副、前住職及成年以上ノ教師、準教師ノ縱覽ニ供スヘシ但シ距離遠隔又ハ交通不便ノ爲メ自ラ組長事務所ニ到リテ縱覽スルコト能ハサルモノハ其ノ旨組長ニ申出テ組長ハ之ニ對シテ選舉資格ノ有無ヲ通知スヘシ

第十八條 選舉資格アル者選舉人名簿ニ脱漏又ハ誤載シアルコトヲ發見シタルトキハ其ノ理由及證據ヲ具シテ縱覽期間内ニ組長ニ訂正ヲ申立ツルコトヲ得

第十九條 組長ハ前條ノ申立ヲ受ケタルトキハ直ニ本山へ上申スヘシ本山ハ更ニ調査ヲナシ申立正當ナリト決定シタルトキハ選舉人名簿正本ヲ訂正シ其ノ旨組長ニ通知シテ副本ヲ訂正セシメ併セテ申立人ニ通知ス若シ申立正當ナラサルトキハ其ノ理由ヲ組長及申立人ニ通知スヘシ

第二十條 選舉人名簿ハ其ノ確定期日ニ至リ確定ス

第二十一條 選舉人名簿ハ其ノ確定ノ日ヨリ次ノ選舉人名簿確定前日迄之ヲ据置クヘシ但シ審決ニ依リ修正スルハ此ノ限ニアラス

第二十二條 天災事變其ノ他ノ事故ニ依リ必要アルト

附 錄・總代會衆選舉規程

キハ更ニ選舉人名簿ヲ調製ス

第三章 投 票

第二十三條 組長ハ選舉ノ期日ヨリ七日以前ニ投票所ヲ指定シ組内ニ告知スヘシ

第二十四條 組長ハ組内ノ選舉人中ヨリ投票立會人二名ヲ選定シ選舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ但シ選舉人中ヨリ立會人ヲ得ル能ハサルトキハ組内正副住職中ヨリ參會セシムルコトヲ得

投票立會人ハ正當ノ理由ナクシテ辭任スルコトヲ許サス

第二十五條 投票所ハ午前七時ニ開キ午後六時ニ閉ツ何人ト雖モ組長ノ許可ナクシテ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第二十六條 選舉人ハ選舉ノ當日日本人自ラ投票所ニ至リ選舉人名簿ノ謄本ニ捺印ノ上投票スヘシ

組長ハ投票ヲ爲サムトスル選舉人ノ本人ナルヤ否ヤヲ確認スルコト能ハサルトキハ其ノ本人ナル旨ヲ宣言セシムヘシ其ノ宣言ヲ爲ササル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

第二十七條 投票用紙ハ一定ノ様式ヲ用ヒ本山ヨリ選舉長ヲ經テ組長ニ交付シ組長ハ投票用紙ニ捺印ノ上選舉ノ當日投票所ニ於テ選舉人ニ交付スヘシ

第二十八條 選舉人ハ投票用紙ニ被選人一名ノ氏名ヲ記載シテ選舉人自ラ之ヲ投函スヘシ

投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

投票ハ代書ヲ許サス

第二十九條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票ヲ爲スコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ記載セラルヘキ本山ノ通知書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ至ル者アルトキハ組長ハ投票用紙ヲ交付シ投票セシメ其ノ旨投票録ニ記載スヘシ

第三十條 第二十六條第二項ノ投票ハ選舉人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投函セシムヘシ

前項ノ場合ハ組長ハ此ノ旨投票録ニ記載スヘシ

第三十一條 選舉人ノ所屬寺ト投票所トノ距離遠隔又ハ交通不便若ハ山命ニヨリ所屬寺以外ニ在ル者ニシテ選舉ノ當日自ラ投票所ニ至リ投票ヲ爲シ能ハサルヘキトキハ選舉ノ期日ノ告知アリタル日ヨリ選舉ノ期日ノ二十日以前ニ自ラ其ノ屬スル組長ニ就キ又ハ之ニ對シ書留郵便ヲ以テ其ノ旨ヲ證シテ投票用紙ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合組長ハ其ノ旨直ニ選舉長ニ申立テ選舉長



附 錄・總代會衆選舉規程

ハ本山ノ許可ヲ經テ郵便投票ヲ許スコトヲ得此ノ場合組長ハ投票用紙ニ捺印ノ上書留郵便ヲ以テ之ヲ送致スヘシ

郵便投票ノ選舉人ハ投票用紙ニ被選人一名ノ氏名ヲ記載シ其ノ屬スル組長事務所ニ書留郵便ヲ以テ之ヲ送致スヘシ

前項ノ郵便投票ハ選舉ノ期日ノ前日迄ニ組長事務所ニ到着スルニアラサレハ其ノ效ナシ

第三十二條 第十二條ノ選舉人ハ選舉ノ期日ノ二十日以前ニ本務寺所屬ノ組長ニ直接又ハ書留郵便ヲ以テ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ受ケタル組長ハ直ニ其ノ旨選舉長ニ申立テ選舉長ハ本山ニ届出テノ上本務寺所屬ノ組長ニ書留郵便ヲ以テ此ノ旨ヲ通知シ同時ニ投票用紙ヲ送致スヘシ若シ選區ノ異リタル場合ハ選舉長ハ本山ニ届出テ其ノ選區ノ選舉長ニ書留郵便ヲ以テ此ノ旨ヲ通知シ同時ニ投票用紙ヲ送付スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル選舉長ハ當該組長ニ書留郵便ヲ以テ之ヲ通知シ同時ニ投票用紙ヲ送致シ組長ハ第二十七條ノ手續ヲ了シ其ノ旨投票録ニ記載スヘシ

第三十三條 郵便投票ニ依ルトキハ選舉人ハ其ノ投票

ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ投票在中ノ旨ヲ明記シ其ノ裏面ニ署名捺印スヘシ

組長ハ前項ノ郵便投票ヲ其ノ儘保管シ投票當日立會人立會ノ上投票函ニ投入シ此ノ旨投票録ニ記載スヘシ

第三十四條 何人ト雖モ選舉人ノ投票ヲ視フコトヲ得ス又何人ニ對シテモ投票シタル被選人ノ氏名ヲ陳述スルノ義務ナシ

第三十五條 組長ハ投票録ヲ作り投票人名及投票ニ關スル顛末ヲ記載シ投票立會人ト共ニ之ニ連署スヘシ

第三十六條 組長ハ投票録及選舉人名簿ヲ封筒ニ入レ之ヲ封緘シ投票録及選舉人名簿在中ナルコトヲ表記シ立會人ト共ニ封印スヘシ

第三十七條 組長ハ投票函、投票録及選舉人名簿ヲ直ニ選舉長事務所ニ携帶送致スヘシ但シ遠隔其ノ他ノ事由ニ依リ止ムヲ得サルトキハ書留小包郵便ニ依ルコトヲ得

第三十八條 選舉長ハ投票函、投票録及選舉人名簿到着後直ニ送致者立會ノ上投票録及選舉人名簿ヲ調査シ更ニ送致者ト共ニ封印シ之ヲ保管スヘシ但シ前條但書ノ場合ハ送致者ニ代フルニ開票立會人ノ一名ヲ

以テス

投票録及選舉人名簿ニ於テ投票會ニ正當ノ成立ヲ缺キタルコトヲ發見シ又ハ投票函ニ異狀アリト認メタル場合ハ選舉長ハ直ニ監正局ニ申告シ其ノ決定ニ依リ第三十九條ノ手續ヲ取ルヘシ

第三十九條 天災事變ノ爲メ豫定ノ期日ニ投票ヲ行フ能ハス又ハ前條第二項ノ場合若ハ投票ヲ失ヒタルトキハ選舉長ハ其ノ組ニ限リ更ニ期日ヲ定メ投票ヲ行ハシム其ノ期日ハ組長ヲシテ七日以前ニ組内ニ告知セシム

第四章 開 票 會

第四十條 選舉長ハ豫メ開票會日及會場ヲ指定シ七日以前ニ選區内へ告示スヘシ

第四十一條 開票ハ選區内各組ノ投票函總テ到達シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ行フ

第四十二條 選舉長ハ選舉ノ期日前二十日迄ニ會衆候補者ノ申出ニヨリ選區内ニ於ケル選舉人中ヨリ三名以上ノ開票立會人ヲ定メ開票會ニ立會ハシムヘシ但シ三名ニ充タサルトキハ選舉長之ヲ補任ス

第四十三條 選舉人ハ開票ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

附 錄・總代會衆選舉規程

第四十四條 選舉長ハ開票立會人立會ノ上投票録及選舉人名簿ニ對照シ投票人ノ總數ト投票ノ總數トヲ計算シテ開票點檢スヘシ

第四十五條 左ノ投票ハ無効トス  
一、會衆候補者ニアラサル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ  
二、第二十八條ニ違背セルモノ  
三、被選人ノ何人ヲ記載シタルカヲ確認シ難キモノ  
但シ誤字ニ係ルモノ之ヲ認知シ得ヘキモノハ此ノ限ニアラス

四、第二十七條ニ依リテ定メラレタル投票用紙ヲ使用セサルモノ但シ第二十六條第二項ノ適用上止ムヲ得サル場合ハ此ノ限ニアラス

五、被選資格ナキ會衆候補者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

第四十六條 投票效力ノ有無ニ付キ疑義アルトキハ開票立會人ノ意見ヲ開キ選舉長之ヲ決定ス

第四十七條 選舉長ハ投票録ヲ作り開票會其ノ他凡テ選舉ニ關スル顛末ヲ記載シ開票立會人ト共ニ連署スヘシ

第四十八條 選舉長ハ投票點檢済ノ上其ノ有效無効ヲ



附 錄・總代會衆選舉規程

區別シテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ投票録及選舉録ヲ併セテ直ニ本山ニ差出スヘシ  
第四十九條 開票會日ニ至リ天災事變ノ爲メ開票ヲ行フ能ハサルトキ若ハ中止シタルトキハ選舉長ハ更ニ相當期日ヲ定メ開票會日ヲ延期スルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨執行ニ届出テ並ニ選區内ヘ告示スヘシ

第五章 會衆候補者及當選決定

第五十條 會衆候補者タラムトスル者ハ選舉ノ期日ノ告示アリタル日ヨリ選舉期日前二十日迄ニ其ノ旨ヲ直接又ハ書留郵便ヲ以テ選舉長ニ届出ツヘシ  
選舉人名簿ニ記載セラレタル者他人ヲ會衆候補者トナサムトスルトキハ前項ノ期間内ニ直接又ハ書留郵便ヲ以テ其ノ推薦ノ届出ヲナスコトヲ得  
前二項ノ期間内ニ届出アリタル會衆候補者其ノ期間ヲ經過シタル後死亡シ又ハ會衆候補者タルコトヲ辭シタル者アルトキハ選舉ノ期日前五日迄ニ其ノ手續ヲ了リ會衆候補者ノ届出又ハ推薦届出ヲナスコトヲ得  
會衆候補者ハ直接又ハ書留郵便ヲ以テ選舉長ニ届出

ヲナスニアラサレハ會衆候補者タルコトヲ辭スルコトヲ得ス

會衆候補者ハ其ノ屬スル末寺第一項ノ期日迄ニ寺法第二十八條ノ義務金ヲ完納スルニアラサレハ其ノ資格ナシ

一人ニシテ二選區以上ノ會衆候補者タルコトヲ得ス  
前第一項乃至第四項ノ届出アリタルトキ又ハ會衆候補者ノ死亡シタルコトヲ知リタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第五十一條 會衆候補者ノ届出又ハ推薦届出ヲナサムトスル者ハ會衆候補者一人ニ付キ五百圓又ハ之ニ相當スル額面ノ國債證書ヲ選舉長ヲ經テ本山ニ供託スルコトヲ要ス  
前項ノ供託物ハ左ノ事由ノ一ニ該當スル場合ニ於テ之ヲ本山ハ臨時收入ニ編入セラルルコトヲ承諾スル旨ノ書面ヲ供託ノ際供託書ト同時ニ提出スヘシ

一、會衆候補者ノ得票數第五十四條ノ法定數ニ達セサルトキ  
二、會衆候補者選舉ノ期日前十日以内ニ至リ會衆候補者タルコトヲ辭シタルトキ

第五十二條 會衆候補者選舉ノ期日前十一日迄ニ會衆

附 錄・總代會衆選舉規程

候補者タルコトヲ辭シタルトキ、選舉ノ期日迄ニ死亡シタルトキ若ハ被選資格ヲ有セサルニ至リタル爲メ會衆候補者タルコトヲ辭シタルトキ又ハ選舉ノ全部無効トナリタルトキ及前條第二項ノ規定ニ該當セサルモノナルトキ又ハ第五十三條ノ規定ノ適用ヲ受ケタルモノナルトキハ前條ノ供託金ハ之ヲ還付ス

第五十三條 第五十條第一項乃至第三項ノ規定ニ依リ届出アリタル會衆候補者其ノ選區ニ於ケル會衆ノ定員ヲ超エサルトキハ其ノ選區ニ於テハ投票ヲ行ハス前項ノ規定ニ依リ投票ヲ行フコトヲ要セサルトキハ選舉長ハ選舉ノ期日前四日迄ニ其ノ旨ヲ選區内ニ告示シ且ツ本山ニ報告スヘシ

第五十四條 有效投票ノ法定數以上ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

得票同數ナルトキハ法務長ヲ取り法務同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム  
法定數ハ有效投票ヲ定員ニテ除シタル數ノ四分ノ一トス

第五十五條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ之ヲ當選人ニ通知スヘシ

第五十六條 當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヤヲ選舉長ニ届出ツヘシ

當選人當選ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ當選承諾ノ旨ヲ届出サルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト見做ス

第五十七條 當選人當選ヲ承諾シタルトキハ選舉長ハ當選人ノ住所寺號氏名及當選承諾ノ旨ヲ執行ニ開申シ執行ハ選舉長ヲ經テ當選狀ヲ交付ス

選舉長ハ當選狀交付ト同時ニ當選人ノ氏名ヲ選區内ニ告示スヘシ

第五十八條 當選人ニシテ當選狀交付以前ニ其ノ當選ヲ辭シタルトキ又ハ死亡シタルトキ若ハ被選資格ヲ失ヒタルトキハ法定數以上ノ得票アル次點者ヲ以テ當選トス

第五十九條 選舉ノ效力ニ關シ異議アル選舉人ハ選舉長ヲ對手トシ開票會ノ日ヨリ三十日以内ニ監正局ニ申告スルコトヲ得

第六十條 當選ヲ失ヒタル者當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ當選人ヲ對手トシ第五十七條ノ當選人氏名



附 錄・總代會衆選舉規程、總代會衆選舉規程施行規則

告示ノ日ヨリ三十日以内ニ監正局ニ申告スルコトヲ得

第六十一條 前二條ノ申告ニ對スル初審ノ審決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ審決ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ再審ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 前三條ノ申告ハ其ノ期限内ニ發送スルニアラサレハ其ノ效ナシ但シ配達證明ヲ以テ發送スルニシ

被申告者ハ監正局ヨリノ通知書到着ノ日ヨリ七日以内ニ配達證明ヲ以テ抗辯書ヲ提出スルコトヲ得

第六十三條 審決ニ依リ選舉ノ全部無効ト確定シ又ハ當選無効ト確定シタルトキハ執行ハ選舉長ヲシテ其ノ選区内ニ告示セシム

選舉無効ト確定シタルトキハ執行ハ三ヶ月以内ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ  
當選無効ト確定シタルトキハ直ニ選舉長ハ開票會ヲ開キ更ニ當選者ヲ定ムヘシ

第六十四條 審決ニヨリ一組若ハ數組ノ再選舉ヲ行フヘキ場合ニ於テ若シ其ノ票數力會衆ノ當選ニ影響セサルトキハ再選舉ヲ行ハス

第六十五條 總代會衆ハ其ノ選舉ノ全部無効又ハ當選

無効タルノ審決確定スルニアラサレハ集會ニ列席スルノ資格ヲ失ハス

第六十六條 第五十九條、第六十條又ハ第六十一條ノ申告取調中集會解散セラレタルトキハ其ノ申告ヲ棄却ス但シ懲戒處分ニ關スル事項ハ此ノ限ニアラス

附 則

本法度ハ次ノ總選舉ヨリ施行ス

本法度ニ依リ初テ總代會衆ヲ選舉スルニ必要ナル選舉人名簿及第十四條ノ期間ニ關シテハ教示ヲ以テ之ヲ定ム

○總代會衆選舉規程施行規則

(明治三十六年十一月)  
教示第二十三號

改正 明治四一、五 明治四五、五  
大正 八、一〇 昭和 三、四

第一條 選舉長事務所ハ選舉長之ヲ定ム

第二條 選舉長事務所ニハ選舉事務ヲ執ラシムル爲メ選舉係及書記ヲ置クコトヲ得

第三條 選舉長事務所ノ設置、開票會日、開票場ノ指

定及事務所員ノ進退ハ必ス本山ニ届出テ選区内ヘ告示スヘシ

第四條 選舉長ハ其ノ事務ニ關シテ選区内ノ管事ト協商シ組長ヲ指揮監督ス

第五條 本山ハ特ニ役員ヲ派シ選舉長ノ選舉事務ヲ監査セシムルコトアルヘシ

選舉長ハ必要ト認メタルトキハ選舉長事務所員ヲ派シテ組長ノ選舉事務ヲ監査セシムルコトヲ得監査ノ際總代會衆選舉規程第九條ノ場合アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ本山ヘ具狀スヘシ

第六條 選舉人ニシテ選舉人名簿ニ有資格ト記載セラレヘキ者ハ該名簿調製期日以前ニ於テ總代會衆選舉規程第十五條ノ故障ナキ者ニ限ル

選舉人名簿調製期日以後ニ於テ總代會衆選舉規程第十一條ノ資格ヲ失ヒタル者又ハ輕懲戒以上ノ處分ヲ受ケタル者ハ選舉人タルノ資格ヲ失フ但シ本項ニ依リ其ノ資格ヲ失フ者アリトスルモ名簿訂正ノ手續ヲ終ラサルトキハ投票ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條 組ノ分合其ノ他ノ事由ニ依リ選舉人名簿ノ訂正ヲ要スルトキハ本山ハ之カ手續ヲトリ先ニ組長ヘ

附 錄・總代會衆選舉規程施行規則

第十三條 組長ハ選舉長ヨリ送致セラレタル投票用紙ニ異數ナキヤ投票函ニ異狀ナキヤ否ヤヲ調査シタル上投票會當日マテ保管スヘシ

投票函ハ本山ヨリ組長ニ送致ス

第十二條 總代會衆選舉規程第四十二條ノ開票立會人ノ届出ハ別記ノ様式ニ依ル

第十一條 本山ハ選舉期日告示後直ニ投票用紙ヲ選舉長ニ送付ス選舉長ハ組長ニ直接又ハ書留小包郵便ヲ以テ交付スヘシ組長ハ選舉長宛受領書ヲ提出スルヲ要ス

第十條 會衆候補者ノ届出又ハ推薦届出ハ文書ヲ以テスヘシ

第九條 會衆候補者ハ總代會衆選舉規程第十三條ノ資格ヲ有シ同第十四條、第十五條ノ故障ナキ者ニシテ同第五十條ノ手續ヲ經タル者ニ限ル

第八條 天災事變其ノ他ノ事故ニ依リ選舉人名簿副本ノ再下附ヲ要スルトキハ組長ハ管事ヲ經テ本山ヘ上申スヘシ

第七條 送付セシ名簿副本ノ交換ヲ爲スモノトス

第六條 前項ノ届出及供託書ハ別記ノ様式ニ依ル

第五條 本山ハ選舉期日告示後直ニ投票用紙ヲ選舉長ニ送付ス選舉長ハ組長ニ直接又ハ書留小包郵便ヲ以テ交付スヘシ組長ハ選舉長宛受領書ヲ提出スルヲ要ス

第四條 會衆候補者ノ届出又ハ推薦届出ハ文書ヲ以テスヘシ

第三條 選舉長事務所ノ設置、開票會日、開票場ノ指



附錄・總代會衆選舉規程施行規則

組長ハ投票ヲ爲サシムルニ先チ投票所ニ於テ投票函  
及投票用紙ヲ立會人ニ點檢セシムヘシ

第十四條 投票用紙ノ様式ハ別記ノ通り之ヲ定ム

第十五條 投票用紙ハ投票會當日投票立會人立會ノ上  
選舉人ヲシテ選舉人名簿ニ捺印セシメタル上組長ヨ  
リ之ヲ交付スヘシ總代會衆選舉規程第三十一條ノ場  
合ハ前項ノ限ニアラス投票用紙ノ交付ハ選舉人一名  
ニ付キ一枚ニ限ル若シ書損ノ場合ハ訂正スルコトヲ  
妨ケス

第十六條 總代會衆選舉規程第二十六條第二項ノ場合  
ハ組長ハ投票立會人立會ノ上其ノ宣言ヲ筆記シ選舉  
人ヲシテ之ニ署名セシメタル上投票用紙ヲ交付シ同  
第三十條ノ手續ヲ取ルヘシ

第十七條 投票立會人有權者ニシテ本人投票ノ場合ハ  
別ニ立會人ノ補缺ヲ要セス

第十八條 投票記入ノ場所ハ選舉人ノ投票ヲ視ヒ又ハ  
其ノ他ノ不正手段ナカラシムル爲メ相當ノ設備ヲナ  
スヘシ

第十九條 投票人ハ投票後直ニ別室ニ退出スヘシ

第二十條 總代會衆選舉規程第三十一條ノ場合ハ別記

ノ様式ニ依リ其ノ所屬組長ニ申出ツヘシ

第二十一條 郵便投票ニ依ルトキハ選舉人ハ投票ノ外  
他ノ書類ヲ封入スルコトヲ得ス

第二十二條 選舉人全部投票シ終リタルトキ又ハ全部  
投票シ終ラサルモ投票所閉鎖時限ニ至リタルトキハ  
組長ハ會場閉鎖ヲ宣言シ立會人ト共ニ本山送付ノ封  
緘紙ヲ用ヒテ投票口ヲ封緘シ捺印ノ上總代會衆選舉  
規程第三十五條、第三十六條ノ手續ヲトルヘシ

第二十三條 投票錄ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一、有權者總數
- 二、出席投票者數並ニ投票者人名
- 三、不參者人名
- 四、總代會衆選舉規程第十二條第二十六條第二  
項、第二十九條第二項、第三十一條ノ場合
- 五、投票用紙ノ受領總數及殘餘數
- 六、其ノ他必要ト認ムル事項
- 七、選舉長及開票立會人ノ姓名
- 八、投票ニ關スル選舉長及開票立會人ノ意見
- 九、其ノ他必要ト認ムル事項

第三十一條 選舉長會衆候補者ヨリ供託物ヲ受取りタ  
ルトキハ供託書ト共ニ直ニ本山ニ送付シ開票會當日  
本山ノ受領書ヲ開票立會人ニ示スヘシ

第三十二條 會衆候補者ヲ辭スルコトノ届出ハ別記ノ  
様式ニ依リ文書ヲ以テナスヘシ

第三十三條 選舉長ハ法定數以上ノ得票者ノ最高點順  
位ニ依リ其ノ定員數ニツキ本山ニ經伺シ資格差支ナ  
キノ指令ヲ得テ之ヲ當選人ト定メ直ニ其ノ旨本山及  
本人ニ通知スヘシ

第三十四條 選舉並ニ當選ニ關シ係争アル間ハ選舉長  
ハ其ノ職務ニ在ルモノトス

部投票セサルトキハ組長ハ之ヲ選舉長ニ報告スヘシ

前項ノ場合選舉長ハ之ヲ棄權ト見做シ開票會ヲ開ク

第二十六條 選舉長ハ開票ニ先チ開票立會人ト共ニ每  
組ノ投票函ヲ嚴密ニ點檢シ投票錄、選舉人名簿ト在  
中ノ投票數トヲ對照調査シタル後開票ニ移ルヘシ

第二十七條 總代會衆選舉規程第四十六條ノ場合ハ之  
ヲ選舉錄ニ記載スヘシ

第二十八條 開票會ハ午前八時ニ開始シ午後五時ニ閉  
鎖スルモノトス但シ午後五時ニ至ルモ尙開票ヲ終ラ  
サルトキハ翌日午前八時ヨリ引續キ開票スヘシ

前項ノ場合ハ既ニ開票シタル投票ト未タ開票セサル  
投票ヲ區別シ別個ノ函ニ入レテ之ヲ封印保管スヘシ

第二十九條 選舉長ハ投票ノ有效無効ヲ決定スヘシ但  
シ總代會衆選舉規程第四十五條ニ依ルノ外他ノ事故  
ニ託シテ投票ノ有效無効ヲ決定スルコトヲ得ス

第三十條 選舉錄ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

附 則

- 一、投票函、投票錄到着ノ時日
- 二、開票ノ場所及時日
- 三、開票會開閉ノ時刻
- 四、投票ノ總數

附 則

本規則ハ次ノ總選舉ヨリ施行ス

(別 記)

投票用紙ノ様式

附 錄・總代會衆選舉規程施行規則



附錄・總代会衆選舉規程施行規則

(412)

本山  
 (投票人一名ノ外記入スレバカラス)  
 總代会衆選舉投票  
 姓名選抜  
 姓名  
 住所  
 所属

會衆候補者届出様式

會衆候補者届

- 一、會衆候補者氏名
  - 一、住 所
  - 一、所 屬 寺
  - 一、教師拜命年月日
- 右第、選區會衆候補者トシテ別紙供託書及供託金相添へ届出候也

年 月 日  
 氏 名

選舉長氏名宛

會衆候補推薦届出様式

會衆候補者推薦届

- 一、會衆候補者氏名
  - 一、住 所
  - 一、所 屬 寺
  - 一、教師拜命年月日
  - 一、推薦届出者氏名
  - 一、住 所
  - 一、所 屬 寺
- 右第、選區會衆候補者トシテ別紙供託書及供託金相添へ届出候也

年 月 日  
 氏 名

選舉長氏名宛

供託書ノ様式

印紙 一金五百圓也

(現金又ハ國債證書)

右今般總代会衆選舉(總代会衆補缺選舉)會衆候補者

(413)

(會衆候補者何誰推薦)届出ニ際シ供託金トシテ本山へ供託被下度候就テハ總代会衆選舉規程第五十一條第二項ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本山ノ臨時收入ニ編入セラルルコトヲ承諾致候也

會衆候補者(會衆候補者何誰推薦者)

選舉長氏名宛

立會人届出様式

開票立會人届

- 一、立會人氏名
  - 一、住 所
  - 一、所 屬 寺
- 右別紙本人ノ承諾書相添へ開票立會人トシテ及届出候也

年 月 日  
 第、選區會衆候補者 氏 名

選舉長氏名宛

辭退届出ノ様式

會衆候補者辭退届

附 錄・總代会衆選舉規程施行規則

會衆候補者 氏 名

事由

右辭退届出候也

年 月 日

第、選區會衆候補者 氏 名

選舉長氏名宛

(推薦届出候補者ノ場合ハ左記連名ヲ要ス)

右推薦届出者 氏 名

郵便投票願出ノ様式

郵便投票願

- 一、投票者氏名
  - 一、住 所
  - 一、事 由 (總代会衆選舉規程第三十一條(ニ依ル正當ト認ムヘキ事由))
- 右事由ニ依リ郵便投票御許可相成様御取計被下度候也

年 月 日  
 組長氏名宛  
 選舉人 氏 名

兼務寺所屬組へ選舉權移動届出ノ様式

兼務寺所屬組へ選舉權移動届



附錄・總代会選舉規程施行規則 執行所執務時間日曜祭日以外ノ定例休暇

- 一、投票者氏名
  - 一、移動先選區、組名寺號
- 右選舉權移動致度候條此段及御届候也

組長氏名宛  
選舉人氏名  
第、選區、組何寺名

○執行所執務時間

五月二十二日ヨリ  
七月十日マデ  
但シ土曜日ハ正午退所  
午後八時  
午後三時

七月十一日ヨリ  
九月十日マデ  
但シ土曜日ハ正午退所  
午前八時  
正午

九月十一日ヨリ  
十月十六日マデ  
但シ土曜日ハ正午退所  
午前八時  
午後三時

十月十七日ヨリ  
五月二十一日マデ  
但シ土曜日ハ正午退所  
午前九時  
午後三時

○日曜祭日以外ノ定例休暇

一月十六日	午後休暇	報恩講
四月八日	午後休暇	花祭
四月十五日	一日	開宗記念日
四月(日限未定)	午後休暇	第十六師團招魂祭
四月(日限未定)	午後休暇	氏神幸祭
五月(日限未定)	一日	氏神還行祭
五月十五日	午後休暇	葵祭
八月十五日	一日	歡喜會
十月十五日	午後休暇	大谷本廟報恩講
十月十六日	一日	同
十一月一日	一日	狛下御誕辰
十二月二十日	一日	御煤拂

明治三十三年八月二十二日初版發行  
大正十四年三月二十二日再版發行  
大正十六年三月二十二日再版發行  
大正十五年五月二十五日再版發行  
昭和八年十二月二十五日再版發行

不許複製

定價金壹圓

送料六錢

編纂者 上原寬成  
本願寺役宅  
京都市下京區北小路通櫛笥西入

發行者 平山云爾  
京都市下京區八條諏訪開町本願寺役宅

印刷所 內外出版印刷株式會社  
京都市下京區木津屋橋通油小路東入  
南町字西洞院川端五二三

代表者 須磨勘兵衛

發行所 京都市下京區堀川通花屋町南入本願寺門前町

本願寺財務部

振替大阪金貳貳番



147  
2104



終